

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

琉 大 上 総 第 5 5 7 号
令 和 5 年 1 0 月 5 日
開 設 者 名 国立大学法人琉球大学
学 長 西 田 睦

琉球大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
氏名	国立大学法人琉球大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

琉球大学病院

3 所在の場所

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地
電話(098) 895 - 3331

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科	
5血管外科		6心臓血管外科		○ 7内分泌外科		8小児外科	
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
1小児歯科		2矯正歯科		○ 3歯科口腔外科			
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	神経科	2	呼吸器科	3	消化器科	4	循環器科	5	病理診断科
6	形成外科	7	リハビリテーション科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40	6	4	0	550	600

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	366	24	376.5
歯科医師	16	4	17.1
薬剤師	44	1	44.8
保健師	0	0	0
助産師	39	0	39
看護師	666	21	682.5
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	5	0	5
管理栄養士	15	0	15

職種	員数
看護補助者	60
理学療法士	19
作業療法士	7
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	23
栄養士	0
歯科技工士	0
診療放射線技師	36

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	48
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	34
その他の技術員	57
事務職員	168
その他の職員	190

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	30.2	眼科専門医	4
外科専門医	23.2	耳鼻咽喉科専門医	11.5
精神科専門医	7	放射線科専門医	9.2
小児科専門医	15	脳神経外科専門医	1
皮膚科専門医	9	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	6	麻酔科専門医	18.8
産婦人科専門医	13	救急科専門医	3
		合計	168.9

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大屋 祐輔) 任命年月日 平成 31 年 4 月 1 日

医療安全管理責任者、医療安全管理委員会委員長、医療安全調査委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	435.6 人	3.2 人	438.8 人
1日当たり平均外来患者数	1093.3 人	64.7 人	1158 人
1日当たり平均調剤数		861.6	剤
必要医師数		109.1	人

必要歯科医師数	4.24	人
必要薬剤師数	15	人
必要(准)看護師数	260	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要				
			病床数		心電計	有	
集中治療室	163.07 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	8 床	心電計	有	
人工呼吸装置			有	心細動除去装置	有		
その他の救急蘇生装置			有	ペースメーカー	有		
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	54.25	m ²	病床数	6 床	
	[移動式の場合]	台数	5	台	9西 2台 6西 3台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積					m ²
	[共用室の場合]	共用する室名	医薬品情報室・薬剤部員室				
化学検査室	350.6 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	血液検査システム			
細菌検査室	126.94 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動迅速同定感受性測定装置			
病理検査室	151.73 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	凍結組織切片作成装置			
病理解剖室	58.44 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	SL写真撮影装置			
研究室	6101 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	HSオールインワン蛍光顕微鏡システム			
講義室	525.91 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	373 人	
図書室	807 m ²	鉄筋コンクリート	室数	5 室	蔵書数	99,898 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	73.4	%	逆紹介率	54.5	%
算出根拠	A: 紹介患者の数			11963	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			9897	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1363	人
	D: 初診の患者の数			18153	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
後 信	九州大学病院	○	医療に係る安全管理に 関する識見を有する者	無	1
望月 保博	かりゆし法律事務所		法律に関する識見を有 する者	無	1
照喜名 通	NPO法人アンビシャス		医療を受ける立場にあ る者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
大学公式ホームページ及び病院公式ホームページでの公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経皮的僧帽弁クリップ術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 経皮的僧帽弁クリップ術(MitraClip)は、重症僧帽弁閉鎖不全症に対する低侵襲治療である。MitraClipは、日本循環器学会に認定された医療機関のみが施行可能な治療法である。			
医療技術名	生体肝移植術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 生体ドナーから肝を部分的に提供し、肝不全の患者の肝臓を全摘出して移植する手術。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術	取扱患者数	102
当該医療技術の概要 経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)は、重症大動脈弁狭窄症に対する低侵襲治療である。TAVIは、経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会に認定された医療機関のみが施行可能な治療法である。			
医療技術名	成人脊柱変形及び症候性側弯症手術	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 高度に変形した脊柱を矯正、固定する手術で、高い手術技術を要する。県内では本院のみで施行している。			
医療技術名	悪性骨・軟部腫瘍切除後の骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植による	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 悪性骨・軟部腫瘍切除後の骨欠損の再建で、大きな人工関節を用いることがあるが、術後感染や人工関節の損傷などにより関節機能の低下をきたす事がある。この問題を解決するために、一度切除した骨を液体窒素につけて処理して、再び自身の骨欠損部に戻して、骨を固定することで、関節機能や力学的強度の温存を期待することができる処理方法。			
医療技術名	類骨骨腫に対するcone-beam CTガイド下搔爬による低侵襲手術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 類骨骨腫は良性の骨腫瘍だが、疼痛をきたす事が問題であり、手術療法による切除あるいは搔爬が多く行われている。しかし骨盤などの深部に存在する場合は、切除が難しい場合もあり、手術侵襲も大きくなる場合がある。手術室に搭載しているcone-beam CTを用いて類骨骨腫を搔爬することで、皮膚切開を2-3cm程度に抑えて、術中に画像で確実に切除されているか確認できる技術。			
医療技術名	四肢皮膚欠損に対する有茎・遊離皮弁術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 皮膚欠損部の被覆を目的に有茎または遊離での皮弁術を行っている。			
医療技術名	腕神経叢損傷に対する機能再建術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 主に肩関節の安定化、肘関節屈曲再建を目的に交差神経移行術を行っている。			
医療技術名	人工肘関節置換術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 関節リウマチや外傷後変形性肘関節症による広範囲軟骨欠損を生じた例に対して人工関節置換を行っている。			
医療技術名	四肢先天異常手術	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 頻度の高い多指症、合趾症などを中心に様々な先天異常に対して、機能再建を目的に手術を行っている。			
医療技術名	人工股関節再置換術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 人工股関節置換術の破損や不具合で、人工股関節を再置換する手術。股関節の解剖に十分な知識や経験を持つ医師、股関節手術に熟達した医師が行う。			
医療技術名	寛骨臼回転骨切り術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 寛骨臼形成不全症に対して、骨盤の骨をくりぬき、回転させる手術。股関節の解剖に十分な知識や経験を持つ医師、股関節手術に熟達した医師が行う。			

医療技術名	大腿骨回転骨切り術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
大腿骨頭壊死症に対して、大腿骨近位部を骨切りし、回転させて固定する手術。 股関節の解剖に十分な知識や経験を持つ医師、股関節手術に熟達した医師が行う。			
医療技術名	寛骨臼骨折に対する観血的整復固定術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
寛骨臼骨折に対して骨盤を展開し、固定する手術。 骨盤の解剖に十分な知識や経験を持つ医師、股関節手術に熟達した医師が行う。			
医療技術名	骨形成不全症の骨変形に対する伸張性髄内釘を用いた矯正骨切り手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
骨基質の主な成分であるI型コラーゲンの量的あるいは質的異常により、骨脆弱性、易骨折性、骨変形などが生じる。下肢長管骨の横径減少、彎曲変形を伴い、小児の場合骨成長を認めることから、骨折手術や変形矯正骨切り手術では伸張性髄内釘を用いている。患者の下肢機能の向上やQOLの改善に寄与している。			
医療技術名	脚長不等に対する創外固定器を用いた脚延長手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
下肢長が異なる症例に対して、創外固定器を装着して、骨切り後に徐々に骨延長を行う手術である。手術に使用する創外固定器は単支柱型とリング型があり、特にリング型では専用ソフトを用いて、骨延長のプログラムを作成する。単純な骨延長のほかに角状変形や回旋変形など、三次元的な矯正を行うことも可能である。			
医療技術名	光免疫治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
再発・手術不能頭頸部癌に対し、アキシャルックスを投与した上で、レーザー光を照射し腫瘍を死滅させる治療。			
医療技術名	経鼻内視鏡下鼻副鼻腔頭蓋底悪性腫瘍手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
従来開頭し摘出していた頭蓋底へ浸潤した鼻副鼻腔癌を経鼻から硬膜を含め切除し、有茎粘膜弁を用いて再建する。術後合併症が少なく、手術成績も開頭術と差がない。			
医療技術名	硬性内視鏡を用いた咽喉頭癌の経口的手術(TOVS)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
早期咽喉頭癌に対し、本手術に特化した開口器を用い癌病変を切除するもの。低侵襲なため高齢者でも受けることができる。また術後の機能は良好で、入院期間も短縮できる。			
医療技術名	経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
慢性中耳炎、早期真珠腫性中耳炎に対し、耳内から硬性内視鏡を挿入し行う鼓室形成術。 従来より低侵襲で入院期間も短い。			
医療技術名	喉頭形成手術(人工形成材料装置術)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
特発性、各種疾患により声帯麻痺を生じて改善がない方に対し、実施する手術でゴアテックスを利用している。 音声改善を目的とした手術。			
医療技術名	磁気式ナビゲーション下鼻副鼻腔手術	取扱患者数	45
当該医療技術の概要			
高度病変・再手術副鼻腔炎や副鼻腔良性・悪性腫瘍に対し、術前画像を用いた磁気式ナビゲーションシステムを用いて周囲臓器を障害しないように安全に手術するもの。			
医療技術名	頭頸部癌切除後の遊離組織移植再建術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
頭頸部癌(鼻副鼻腔、口腔、中咽頭、下咽頭など)の切除に伴い欠損した組織を血管吻合をともなう遊離組織移植で機能再建をおこなう。			
医療技術名	人工内耳埋込手術およびリハビリテーション	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
小児・成人の両耳高度難聴者に対し人工内耳埋込手術を行い、術後リハビリテーションを行うことにより聴覚を取り戻す。			
医療技術名	全身化学療法不応肝転移に対するTACE	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
肝転移による肝障害は全身状態を悪化させ、予後を縮めるため、TACEを行うことで肝局所の病変をコントロールすることで全身状態の維持、予後延長を図る緩和治療。			
医療技術名	放射線治療不応骨転移に対する動注化学塞栓術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
放射線治療後の再発あるいは無効である骨転移症例に対して行っている。			

医療技術名	全身照射	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 骨髄移植の前処置としての全身照射を県内で唯一当院で施行している。			
医療技術名	前立腺癌に対する小線源刺入療法	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 前立腺癌の根治を目的とした治療法の1つである小線源刺入療法を県内で唯一当院で施行している。			
医療技術名	婦人科悪性腫瘍に対する腔内照射/組織内照射	取扱患者数	88
当該医療技術の概要 子宮頸癌の標準治療に含まれ、また子宮体癌、外陰癌、腔癌等の婦人科悪性腫瘍に対しても適応のある腔内照射を県内で唯一当院で施行している。			
医療技術名	動体追尾照射	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 腰椎椎間板ヘルニアに対する治療で、十分な知識、経験を持つ医師、椎間板剥刺に熟達した医師が行う。ショックやアナフィラキシーに対処できる施設で行う。			
医療技術名	癒着胎盤例に対する子宮全摘術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 癒着胎盤に対する子宮全摘術は、大量出血により致命的になる可能性のある疾患であり、高い技術と術前の綿密な準備を要す。 術前の重症度評価と、麻酔科、泌尿器科、放射線科、ICU、小児科との連携により救命し得る。			
医療技術名	広汎子宮頸部摘出術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 妊孕性温存を希望する若年の子宮頸癌(初期浸潤癌)に対し行う手術である。			
医療技術名	妊孕性温存目的卵巣凍結	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 小児(0~14才)のがん患者さんが、がん治療により妊娠する能力を失ってしまう可能性がある場合、がん治療前に卵巣を凍結し、がん克服後に融解し、移植する技術である。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 腹腔鏡下に子宮頸癌に対して行う手術である。			
医療技術名	アミノレブリン酸による術中蛍光診断	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 アミノレブリン酸は、悪性神経膠腫や髄膜腫では、細胞内に取り込まれた後、ミトコンドリア内にてプロトポルフィリンIXへと代謝され、腫瘍細胞内に選択的に蓄積する。プロトポルフィリンIXは、光高感受性物質であり、青色光線(400-410nm)により励起されると、赤色発光するため、術中に腫瘍と正常組織との識別が可能となり、摘出率の向上及び予後の改善に重要な役割を果たしている。			
医療技術名	画像誘導装置を用いた脳腫瘍摘出術	取扱患者数	85
当該医療技術の概要 脳腫瘍摘出術中にニューロナビゲーションシステムを用いて頭蓋内病変の位置と周囲神経線維、脳神経、主要血管の位置を同定し、より安全で確実な病変の摘出と神経機能温存を可能にする技術である。			
医療技術名	術中ICG蛍光血管撮影	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 術中にインドシアングリーン(ICG)を静脈内投与し、赤外線による蛍光により頭蓋内血管を同定する。脳腫瘍における栄養血管の評価、周囲静脈系の評価に有効である。また、血行再建術やクリッピング術において、処置の精度、血管温存の確認などの評価が術中に可能であり、安全で質の高い手術を行うための技術である。			
医療技術名	術中神経機能モニタリング	取扱患者数	80
当該医療技術の概要 術中に誘発電位や筋電図を記録することにより、神経機能を直接評価しつつ手術を行うことが可能となる技術である。運動誘発電位、脳神経モニタリング、聴性脳幹反応、体性感覚誘発、視覚誘発電位があり神経機能温存のために有用である。			
医療技術名	ロボットスーツを用いたニューロリハビリテーション	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 身体に装着することによって、身体機能を補助・増幅・拡張することができるサイボーグ型ロボットHAL(Hybrid Assistive Limb)を使用したリハビリテーションである。脳腫瘍や脳卒中による運動機能障害を有する患者の急性期リハビリテーションに有用である。			

医療技術名	経頭蓋直流電気刺激法を用いたニューロリハビリテーション	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
tDCS（経頭蓋直流電気刺激法）は、障害脳の頭皮上に陽極電極、反対側に陰極電極を設置して、1mAの直流電流を用いて10～30分間刺激を行う電気刺激法であり、障害脳の興奮性シグナルを増加させ、健側脳の過活動を抑制することで、大脳半球間の不均衡を修正し、脳の可塑的变化を促進すると考えられている装置である。脳腫瘍、脳卒中、頭部外傷による機能障害を有する患者の急性期リハビリテーションに有用である。			
医療技術名	悪性脳腫瘍に対する光線力学療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
浸潤性性格を有する悪性脳腫瘍に対して、腫瘍切除後、浸潤最先端部を術中MRIにて同定し、マイクロ顕微鏡による直視とナビ画像により浸潤最先端部を術野に同定し、光線力学療法によりがん細胞を選択的に焼するものである。患者生命予後の向上に寄与している。			
医療技術名	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
抗癌剤化学療法は多くの施設で画一的に同じ組み合わせで施行されているが、抗癌剤に対する感受性は個々の腫瘍によって異なり、また同一患者においても組織学的な悪性のグレードおよび初発または再発の腫瘍で相違する。化学療法前に抗癌剤に対する感受性をあらかじめ解析することにより、それに応じた抗癌剤の組み合わせで最適、有効な治療を実践する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の数	42
取扱い患者数の合計(人)	744

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
1	69	球脊髄性筋萎縮症	1	リンパ管筋腫症	4
2	70	筋萎縮性側索硬化症	15	網膜色素変性症	17
3	71	原発性側索硬化症	1	バッド・キアリ症候群	4
4	72	進行性核上性麻痺	9	特発性門脈圧亢進症	2
5	73	パーキンソン病	52	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	40
6	74	大脳皮質基底核変性症	4	原発性硬化性胆管炎	1
7	75	ハンチントン病	2	自己免疫性肝炎	6
8	76	重症筋無力症	39	クローン病	122
9	77	多発性硬化症/視神経脊髄炎	39	潰瘍性大腸炎	93
10	78	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	4	好酸球性消化管疾患	1
11	79	封入体筋炎	1	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	12
12	80	多系統萎縮症	3	筋ジストロフィー	5
13	81	脊髄小脳変性症 (多系統萎縮症を除く。)	8	遺伝性周期性四肢麻痺	2
14	82	ライソゾーム病	17	アトピー性脊髄炎	1
15	83	副腎白質ジストロフィー	1	脊髄空洞症	3
16	84	ミトコンドリア病	7	脊髄髄膜瘤	3
17	85	もやもや病	4	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	3
18	86	プリオン病	1	前頭側頭葉変性症	1
19	87	亜急性硬化性全脳炎	5	ビッカースタッフ脳幹脳炎	2
20	88	HTLV-1関連脊髄症	10	アレキサンダー病	1
21	89	特発性基底核石灰化症	1	レノックス・ガストー症候群	2
22	90	全身性アミロイドーシス	4	ウエスト症候群	1
23	91	ウルリッヒ病	1	レット症候群	1
24	92	遠位型ミオパチー	1	スタージ・ウェーバー症候群	2
25	93	神経線維腫症	11	結節性硬化症	8
26	94	天疱瘡	21	色素性乾皮症	1
27	95	表皮水疱症	1	先天性魚鱗癬	1
28	96	膿疱性乾癬(汎発型)	13	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	14
29	97	高安動脈炎	14	特発性後天性全身性無汗症	8
30	98	結節性多発動脈炎	3	眼皮膚白皮症	1
31	99	顕微鏡的多発血管炎	13	肥厚性皮膚骨膜炎	1
32	100	多発血管炎性肉芽腫症	13	マルファン症候群	11
33	101	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	5	エーラス・ダンロス症候群	3
34	102	悪性関節リウマチ	3	ウィルソン病	4
35	103	バージャー病	4	低ホスファターゼ症	2
36	104	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	ブラダー・ウィリ症候群	1
37	105	全身性エリテマトーデス	118	ファロー四徴症	1
38	106	皮膚筋炎/多発性筋炎	61	アルポート症候群	1
39	107	全身性強皮症	78	抗糸球体基底膜腎炎	4
40	108	混合性結合組織病	11	一次性ネフローゼ症候群	11
41	109	シェーグレン症候群	38	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
42	110	成人スチル病	2	紫斑病性腎炎	1
43	111	再発性多発軟骨炎	3	間質性膀胱炎(ハンナ型)	4
44	112	ベーチェット病	24	カーニー複合	1
45	113	特発性拡張型心筋症	29	副甲状腺機能低下症	1
46	114	肥大型心筋症	5	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2
47	115	再生不良性貧血	8	フェニルケトン尿症	2
48	116	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1	プロピオン酸血症	1
49	117	特発性血小板減少性紫斑病	19	イソ吉草酸血症	1
50	118	原発性免疫不全症候群	2	ポルフィリン症	2
51	119	IgA腎症	50	肝型糖尿病	1
52	120	多発性嚢胞腎	21	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	1
53	121	黄色靱帯骨化症	6	家族性地中海熱	1
54	122	後縦靱帯骨化症	43	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
55	123	広範脊柱管狭窄症	6	強直性脊椎炎	2
56	124	特発性大腿骨頭壊死症	79	骨形成不全症	4
57	125	下垂体性ADH分泌異常症	21	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
58	126	下垂体性PRL分泌亢進症	9	後天性赤芽球癆	4
59	127	クッシング病	4	ファンconi貧血	1
60	128	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	18	非特異性多発性小腸潰瘍症	2
61	129	下垂体前葉機能低下症	75	アラジール症候群	1
62	130	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1	IgG4関連疾患	5
63	131	先天性副腎皮質酵素欠損症	3	アッシュャー症候群	2
64	132	アジソン病	1	好酸球性副鼻腔炎	24
65	133	サルコイドーシス	32	先天異常症候群	1
66	134	特発性間質性肺炎	5	カルニチン回路異常症	1
67	135	肺動脈性肺高血圧症	24	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	1
68	136	慢性血栓性肺高血圧症	26	特発性多中心性キャスルマン病	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	136
合計患者数(人)	1629

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神13:1、結核7:1)	・呼吸ケアチーム加算
・入院栄養管理体制加算	・後発医薬品使用体制加算1
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・診療録管理体制加算1	・データ提出加算2のイ
・医師事務作業補助体制加算1(20対1)	・入退院支援加算1 入退院支援加算1(入院時支援加算)
・急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者 5割以上)	・入退院支援加算1(総合機能評価加算)
・夜間100対1急性期看護補助体制加算	・入退院支援加算3
・夜間看護体制加算	・認知症ケア加算2
・看護職員12対1夜間配置加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・看護補助加算2	・精神疾患診療体制加算
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・重症者等療養環境特別加算	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算1	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料1(小児加算)
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合、密封小線源による場合)	・特定集中治療室管理料1(早期離床・リハビリテーション加算)
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料1(早期栄養介入管理加算)
・精神科応急入院施設管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・精神科身体合併症管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料2(プレイルーム加算)
・栄養サポートチーム加算	・無菌治療管理加算2
・医療安全対策加算1	・看護職員処遇改善評価料(71)
・感染対策向上加算1(指導強化加算)	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・患者サポート体制充実加算	・歯科外来診療環境体制加算2
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・歯科診療特別対応連携加算
・ハイリスク妊娠管理加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・ハイリスク分娩管理加算	・入院時食事療養(I)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・外来栄養食事指導料の注3に規定する施設基準	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・網膜再建術
・糖尿病合併症管理料	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・人工中耳植込術
2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数	・人工内耳植込術
・がん患者指導管理料 ロ	・植込型骨導補聴器移植術
・がん患者指導管理料 ハ	・植込型骨導補聴器交換術
・がん患者指導管理料 ニ	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・外来緩和ケア管理料	・人工中耳用材料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・糖尿病透析予防指導管理料	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・小児運動器疾患指導管理料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・婦人科特定疾患治療管理料	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・腎代替療法指導管理料	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術通則第19号)
・一般不妊治療管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1(乳腺悪性腫瘍手術の加算)及びセンチネルリンパ節生検(片側・併用)
・生殖補助医療管理料1	・乳がんセンチネルリンパ節加算2(乳腺悪性腫瘍手術の加算)及びセンチネルリンパ節生検(片側・単独)
・二次性骨折予防継続管理料1	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・二次性骨折予防継続管理料3	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・院内トリアージ実施料	・胸腔鏡下弁形成術
・救急搬送看護体制加算1	・経カテーテル大動脈弁置換術
・外来放射線照射診療料	・胸腔鏡下弁置換術
・外来腫瘍化学療法診療料1	・経皮的僧帽弁クリップ術
・連携充実加算	・経皮的中隔心筋焼灼術

・ニコチン依存症管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・相談支援加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・がん治療連携計画策定料	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・外来排尿自立指導料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・薬剤管理指導料	・補助人工心臓
・医療機器安全管理料1	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・医療機器安全管理料2	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・精神科退院時共同指導料2	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合) 皮下連続式グルコース測定	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)
・遺伝学的検査	・腹腔鏡下肝切除術(1 部分切除 2 外側区域切除 3 亜区域切除 4 1区域切除(外側区域切除を除く) 5 2区域切除 6 3区域切除以上のもの)
・流産検体を用いた絨毛検査	・生体部分肝移植術
・骨髓微小残存病変量測定	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・BRCA1/2遺伝子検査	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・がんゲノムプロファイリング検査	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・先天性代謝異常症検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・抗HLA(スクリーニング検査)及び抗HLA(抗体特異性同定検査)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・同種死体腎移植術
・検体検査管理加算(I)	・生体腎移植術
・検体検査管理加算(IV)	・膀胱水圧拡張術
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・人工尿道括約筋植込・置換術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)
・時間内歩行試験	・埋没陰茎手術
・シャトルウォーキングテスト	・陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・ヘッドアップティルト試験	・精巣内精子採取術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・光トポグラフィー	・腹腔鏡下仙骨脛固定術
・神経学的検査	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・黄斑局所網膜電図	・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
・全視野精密網膜電図	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術通則第19号)
・小児食物アレルギー負荷検査	・体外式膜型人工肺管理料
・内服・点滴誘発試験	・胃瘻造設術
・画像診断管理加算3	・輸血管理料Ⅱ
・ポジトロン断層撮影	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・コーディネート体制充実加算
・CT撮影及びMRI撮影	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・冠動脈CT撮影加算	・同種クリオプレシピテート作製術
・心臓MRI撮影加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・乳房MRI撮影加算	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・麻酔管理料(Ⅰ)
・頭部MRI撮影加算	・麻酔管理料(Ⅱ)
・全身MRI撮影加算	・周術期薬剤管理加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・放射線治療専任加算
・外来化学療法加算1	・外来放射線治療加算
・無菌製剤処理料	・高エネルギー放射線治療
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・1回線量増加加算(全乳房照射)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・1回線量増加加算(前立腺照射)(IMRTの加算)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・摂食嚥下機能回復体制加算2	・体外照射呼吸性移動対策加算
・がん患者リハビリテーション料	・定位放射線治療

・集団コミュニケーション療法料	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(動体追尾法・その他)
・児童思春期精神科専門管理加算	・画像誘導密封小線源治療加算
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料	・デジタル病理画像による術中迅速病理診断組織標本作製
・医療保護入院等診療料	・デジタル病理画像による迅速細胞診
・静脈圧迫処置	・病理診断管理加算2
・硬膜外自家血注入	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・歯科治療時医療管理料
・導入期加算2 腎代替療法実績加算	・医療機器安全管理料(歯科)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・咀嚼能力検査
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・咬合圧検査
・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・摂食嚥下機能回復体制加算2(摂食機能療法の加算)
・センチネルリンパ節加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・手術用顕微鏡加算(加圧根幹充填処置の加算)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・歯根端切除手術の注3(歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合)
・椎間板内酵素注入療法	・歯周組織再生誘導手術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・口腔病理診断管理加算2
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・仙骨神経刺激装置植込術及び交換術(過活動膀胱)	・CAD/CAM冠
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・歯科矯正診断料
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	古泉 英貴	眼科	一括経理	補	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の発展	中西 浩一	育成医学講座	450,000	補	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
特発性大腿骨頭壊死症の医療水準及び患者のQOL向上に資する大規模多施設研究	仲宗根 哲	整形外科学講座	200,000	補	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの充実化に資する研究	仲松 正司	感染対策室	450,000	補	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する肝移植を含めた外科治療に関する研究	高槻 光寿	第一外科	200,000	補	厚生労働省行政推進調査事業費(研究分担者)
難治性聴覚障害に関する調査研究	鈴木 幹男	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	500,000	補	厚生労働省科学研究費(研究分担者)
バイオテロ対策のための備蓄されている細胞培養痘そうワクチンの備蓄等、バイオテロ病原体への検査対応、公衆衛生との関連のあり方に関する研究	仲村 秀太	感染症・呼吸器・消化器内科学講座	3,066,000	補	厚生労働省行政推進調査事業費(研究分担者)
病原性レプトスピラによる細胞間接着装置の破壊戦略の解明	Toma Claudia	細菌学講座	4,300,000	補	日本学術振興会 科研費補助金
細胞骨格ダイナミクスに基づく分子輸送制御システムの解明と革新的癌創薬への新展開	野口 洋文	再生医学講座	1,000,000	補	日本学術振興会 科研費補助金(研究分担者)
OTN-NIR蛍光によるDDSナノキャリアの動的三次元追跡	岸本 英博	免疫学・寄生虫学講座	200,000	補	日本学術振興会 科研費補助金(研究分担者)
組織骨格を利用した再生臓器におけるハイブリッド型血管につちの確立と移植研究	山本 和子	感染症・呼吸器・消化器内科学講座	50,000	補	日本学術振興会 科研費補助金(研究分担者)
iPS細胞由来中胚葉系細胞を用いて新たな靭帯再建法の確立を目指す研究	東 千夏	整形外科学講座	400,000	補	日本学術振興会 科研費補助金(研究分担者)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新規器官培養法による乳歯由来ヒトiPS細胞を経由したインスリン分泌細胞形成の誘導	野口 洋文	再生医学講座	100,000	補委	日本学術振興会 科研費補助金(研究分担者)
脳機能ネットワークの観点から行うPusher現象の病態解析と新規治療法の開発	西村 正彦	脳神経科学講座	400,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
鼻副鼻腔内反性乳頭腫の診断、再発、悪性転化のバイオマーカー探索と機序の解明	山下 懐	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	600,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
組織トランスグルタミナーゼに着目した多発性嚢胞腎病態に基づく疾患特異的治療の開発	中西 浩一	育成医学講座	900,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
リボソームタンパク質のリン酸化を介した先天性貧血における造血制御機構の解析	鳥原 英嗣	生化学講座	900,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
抗がん剤心血管毒性の克服とがんサバイバーの心血管リスク低減を目指した臨床研究	植田 真一郎	臨床薬理学講座	700,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
HLAの異常に基づく成人T細胞白血病リンパ腫の個別化免疫療法を目指した基礎的研究	森島 聡子	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	700,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
玄米機能成分による脳内アセチルコリンシグナル制御と依存症・認知症改善の分子機構	益崎 裕章	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
前立腺癌の悪性度に関わる幹細胞マーカーSSEA-4の役割	須田 哲司	腎泌尿器外科学講座	700,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
頭頸部癌におけるctDNA検出法の確立および臨床応用	平川 仁	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
女性骨盤底機能障害のレジストリ作成に基づいた予防・先端治療の確立	芦刈 明日香	腎泌尿器外科	500,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
子宮頸癌の網羅的ゲノム解析による放射線治療効果の予測因子の探索	前本 均	放射線科	300,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
4D Flow MRIを用いたバッド・キアリ症候群の血流定量解析	土屋 奈々絵	放射線診断治療学講座	100,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
小脳腫瘍摘出前後でのfMRIと脳波の同時計測によるバイオマーカー同定	上 薫	脳神経外科学講座	400,000	補委	日本学術振興会 科研費基金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補委	託元
Novel viral noncoding RNAs in head and neck cancers	小杉 隆誠	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	500,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
HPV関連頭頸部癌におけるmTOR経路Raptorを標的とした新規治療の開発	上原 貴行	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	800,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
強膜断層像に着目した黄斑疾患の病態解明	今永 直也	眼科	800,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
磁性アタッチメントを用いた簡便かつ低侵襲なエピソード装着法の開発	笠井 昭吾	形成外科	1,000,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
口腔がん再発予防ペプチドカクテルワクチンの樹立に関する基礎的研究	宮本 昇	歯科口腔外科	1,100,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
腎癌骨転移の骨関連有害事象(SRE)低減に向けた治療法の開発	平安名 常一	放射線部	800,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
小児期シェーグレン症候群におけるCD38による腺外組織障害への進展機序の解明	金城 紀子	育成医学講座	800,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
がんウイルスが形成するハイブリッド転写開始前複合体の全体構成解明と創薬シーズ探索	渡部 匡史	ウイルス学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
Prickle2の発現を制御するmiRNAのマウスを用いた遺伝学的解析	樋口 裕城	システム生理学講座	300,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
血管内皮細胞機能の補完は腸管虚血の予後を改善するか:新規マウス虚血モデルでの検討	林 美鈴	麻酔科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
骨肉腫における抗がん剤耐性や肺転移に関するマイクロRNAの解析	當銘 保則	整形外科科学講座	700,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
抑制性伝達物質発現調整によるジストニア改善の試み;GAD65とVGAT過剰発現	湧上 竜也	集中治療部	1,100,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
実験的自己免疫性膀胱炎ラットを用いた間質性膀胱炎・膀胱痛症候群の病態解明	嘉手川 豪心	システム生理学講座	700,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
PI3K/Akt/mTOR経路を標的とした頭頸部癌低侵襲治療の開発	鈴木 幹男	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会 科研費基金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補委	元
頭頸部癌発症に関する遺伝子多型と生活習慣	比嘉 朋代	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
慢性腎臓病における運動、身体活動量と腎微小循環の関連に関する探索的研究	古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	600,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
SafeCTのノイズ除去処理によるearly CT signの描出改善の検討	與儀 彰	放射線部	2,000,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
脊髄供血環境の新たな評価法と脊髄虚血障害予防への応用	喜瀬 勇也	胸部心臓血管外科学	900,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
ヒト乳頭腫ウイルス関連頭頸部癌の低酸素状態の分子機構に着目した低侵襲治療開発	安慶名 信也	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
がん抗原の発現増強の新技术としてのmRNA監視機構阻害	山下 暁朗	先進医療創成科学講座	2,000,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
新規遺伝子や低分子化合物を用いた組織特異的幹細胞の人工作製	野口 洋文	再生医学講座	1,500,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
FLRT2を介した癌骨浸潤・転移機構の解明とその制御による骨転移予防の可能性	白川 純平	顎顔面口腔機能再建学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
CD4+CD28-T細胞を標的としたステロイド抵抗性慢性GVHDの治療開発	浜田 聡	小児科	600,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
肺高血圧症に対するCARS2遺伝子治療法の確立	筒井 正人	薬理学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
グルコース輸送体標的化イムノキシンによる成人T細胞白血病の新規治療法開発	仲地 佐和子	第二内科	1,500,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
人工間葉系幹細胞を用いた肺線維症モデルマウスに対する効果	潮平 知佳	再生医学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
沖縄型ALSの脊髄局所モデル動物作成と外科的治療法の探索;変異型TFG発現制御	神里 興太	麻酔科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会 科研費基金
リンパ浮腫治療のための脂肪間質細胞改変型"Designer Cells"の開発	市瀬 多恵子	形成外科	1,400,000	補委	日本学術振興会 科研費基金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
沖縄県に好発する血管肉腫の免疫微小環境の理解と治療標的となる腫瘍ゲノム変異の探索	栗澤 遼子	皮膚科学講座	1,700,000	補	日本学術振興会 科研費基金
斑状強皮症型基底細胞癌の高悪性度特性を規定する背景因子解明のための遺伝子発現解析	内海 大介	皮膚科学講座	1,700,000	補	日本学術振興会 科研費基金
老化細胞除去で有害事象軽減と治療効果増強を実現する高齢血液悪性疾患の新治療戦略	西 由希子	検査・輸血部	1,900,000	補	日本学術振興会 科研費基金
糖尿病による排尿障害の克服、低出力体外衝撃波による新規治療法の確立	木村 隆	腎泌尿器外科	1,700,000	補	日本学術振興会 科研費基金
EphA4活性化により生じる高分化型口腔癌メトロノーム化学療法耐性機構の解明	金城 貴夫	保健学科 形態病理学分野	50,000	補	日本学術振興会 科研費基金 (研究分担者)
難治性うつ状態の治療における多職種チーム医療を用いた再発の予測と予防に関する検討	高江洲 義和	精神病態医学講座	10,000	補	日本学術振興会 科研費基金 (研究分担者)
歯の再生を目指したヒト乳歯歯髄管細胞濃縮と機能解析	野口 洋文	再生医学講座	150,000	補	日本学術振興会 科研費基金 (研究分担者)
重症二次性三尖弁逆流に対するスパイラル・サスペンション法の有効性に関する臨床研究	古川 浩二郎	胸部心臓血管外科学講座	30,000	補	日本学術振興会 科研費基金 (研究分担者)
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	青木 陽一	女性・生殖医学講座	260,000	補	日本医療研究開発機構 (研究者分担)
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	仲村 秀太	感染症・呼吸器・消化器内科学講座	585,000	補	日本医療研究開発機構
新規HTLV-1感染モデルを用いたHAMの発症予防法・治療法の開発	田中 勇悦	血液免疫検査学講座	2,600,000	補	日本医療研究開発機構 (研究者分担)
骨盤臓器脱及び下部尿路疾患の網羅的情報に基づいた選別化と個別化治療戦略	宮里 実	システム生理学講座	13,000,000	補	日本医療研究開発機構
思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究	青木 陽一	女性・生殖医学講座	195,000	補	日本医療研究開発機構 (研究者分担)
マルチオミクス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現	植田 真一郎	臨床薬理学講座	6,900,000	補	日本医療研究開発機構 (研究者分担)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発	知念 安紹	育成医学講座	5,200,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構(研究者分担)
琉球大学を起点としたヒト細胞原料供給体制の実証	清水 雄介	形成外科学講座	46,800,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構
臨床研究者による活用を目指した臨床研究技能と研究	植田 真一郎	臨床薬理学講座	910,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構(研究者分担)
肥満症における減量治療反応性・抵抗性に関する遺伝	前田 士郎	先進ゲノム講座	650,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構(研究者分担)
ゲノム情報により造血幹細胞移植の最適化を目指す研究	森島 聡子	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	650,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構(研究者分担)
病院外療養患者に対応可能なハイブリッド型バーチャル試験の手法を取り入れたCOVID-19患者におけるコルヒチン第3相試験	植田 真一郎	臨床薬理学講座	13,000,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症(ALS)に対する遺伝子治療法の開発	垣花 学	麻酔科学講座	1,300,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構(研究者分担)
去勢抵抗性前立腺癌患者における血清マーカーの探索	斎藤 誠一	腎泌尿器外科学講座	3,006,250	補 ⑤委	日本医療研究開発機構(研究者分担)
病院外療養の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)患者における抗炎症薬コルヒチンによる重症化予防	金城 武士	感染症・呼吸器・消化器内科学講座	157,365,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構
デジタル技術を活用した生涯にわたる血压管理に関する指針の研究開発	大屋 祐輔	循環器・腎臓・神経内科学講座	1,105,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構(研究者分担)
ゲノム情報により造血幹細胞移植の最適化	森島 聡子	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	650,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構(研究者分担)
らせん繊維状コレラ菌の運動様式の解析と感染における意義に関する研究	許 駿	細菌学講座	1,768,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構
RNA標的創薬技術開発/核酸医薬品実用化のための製造及び分析基盤技術開発	鈴木 健夫	医化学講座	6,474,260	補 ⑤委	日本医療研究開発機構(研究者分担)
家族性LCAT欠損症を対象としたLCAT-GMAC治療実用化に向けた医師主導治験	益崎 裕章	第二内科	2,600,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構(研究者分担)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
緩和ケア病棟入院中のがん患者に対するリハビリテーションの有効性検証ならびに普及実装に向けた研究	中島 信久	地域・国際医療部	130,000	補 ⑤	日本医療研究開発機構(研究者分担)
地域統括相談支援センター事業	増田 昌人	がんセンター	7,488,699	補 ⑤	沖縄県
がん患者等支援事業	増田 昌人	がんセンター	9,200,000	補 ⑤	沖縄県
沖縄県地域医療支援センター運営事業費	大屋 祐輔	沖縄県地域医療支援センター	35,153,416	補 ⑤	沖縄県
沖縄県エイズ治療拠点病院研修委託事業	仲村 秀太	第一内科	917,000	補 ⑤	沖縄県
沖縄県肝疾患診療連携拠点病院事業	前城 達次	第一内科	10,524,000	補 ⑤	沖縄県
沖縄県認知症疾患医療センター事業	近藤 毅	認知症疾患医療センター	10,074,000	補 ⑤	沖縄県
肝炎情報センター戦略的強化事業委託費	前城 達次	第一内科	801,000	補 ⑤	国立国際医療研究センター
HIV診療医師情報網支援事業	仲村 秀太	第一内科	179,000	補 ⑤	九州ブロックエイズ診療ネットワーク
沖縄県感染症診療ネットワークコーディネーター配置委託	仲村 秀太	第一内科	6,000,000	補 ⑤	沖縄県
沖縄県難病医療提供体制整備事業	大屋 祐輔	病院長	5,203,999	補 ⑤	沖縄県
沖縄県新生児聴覚検査体制整備事業	鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	6,300,000	補 ⑤	沖縄県
新型コロナウイルスに感染した妊産婦への寄り添い型支援事業	銘苺 桂子	周産母子センター	24,750	補 ⑤	沖縄県
HIV感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の整備事業	仲村秀太	第一内科	120,000	補 ⑤	沖縄県

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業	照屋 典子	成人・老年看護学講座	9,950,000	補 委	文部科学省
研究拠点形成費等補助金(ポストコロナ事業)	筒井 正人	医学部長	78,620,000	補 委	文部科学省
バイオ関連産業事業化促進事業補助金	清水 雄介	形成外科学講座	4,000,000	補 委	株式会社 Grancell
大学改革推進等補助金「医学部等教育・働き方改革支援事業」	筒井 正人	医学部長	24,882,000	補 委	文部科学省
新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業補助金	大屋 祐輔	病院長	1,692,284,000	補 委	沖縄県
地域医療関連講座設置事業	大屋 祐輔	病院長	24,475,000	補 委	沖縄県
指導医育成プロジェクト事業	武村 克哉	地域医療部	4,661,000	補 委	沖縄県
がん診療連携拠点病院機能強化事業	増田 昌人	がんセンター	66,209,000	補 委	厚生労働省
沖縄県新人看護職員研修事業	大屋 祐輔	病院長	1,570,000	補 委	沖縄県
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業(認定看護師・特定行為研修支援事業)	大屋 祐輔	病院長	9,126,000	補 委	沖縄県
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金(医師派遣推進)	大屋 祐輔	病院長	280,736,000	補 委	沖縄県
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金(産科医等確保支援事業)	大屋 祐輔	病院長	550,000	補 委	沖縄県
ヘリコプター等添乗医師等派遣協力病院支援事業補助金	大屋 祐輔	病院長	1,040,000	補 委	沖縄県
看護師の特定行為に係る指導者育成等事業	大屋 祐輔	病院長	807,000	補 委	厚生労働省
地域災害拠点病院設備整備事業	梅村 武寛	救急部	2,434,000	補 委	沖縄県

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
NBC災害・テロ対策設備整備事業	梅村 武寛	救急部	4,208,000	補	沖縄県
医師臨床研修費等補助金(医師)	大屋 祐輔	病院長	21,665,150	補	沖縄県
沖縄県外科系医師育成事業	大屋 祐輔	病院長	1,500,000	補	沖縄県
造血幹細胞移植医療体制整備事業	益崎 裕章	第二内科	35,056,000	補	厚生労働省
新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関設備整備事業	大屋 祐輔	病院長	4,240,000	補	沖縄県
救急・周産期・小児医療体制確保事業(設備整備等事業)	大屋 祐輔	病院長	3,575,000	補	沖縄県
新型コロナウイルス感染症医療機関協力金交付事業	大屋 祐輔	病院長	83,274,000	補	沖縄県
帰国者・接触者外来等設備整備事業	大屋 祐輔	病院長	783,000	補	沖縄県
濃厚接触者となった医療従事者に対する行政検査の実施	大屋 祐輔	病院長	201,000	補	沖縄県
障害者総合支援事業費補助金(補装具装具訓練等支援)	神谷 武志	リハビリテーション部	4,967,000	補	厚生労働省
医師定着のための臨床研究プロフェッショナル育成事業	植田 真一郎	臨床研究教育管理センター	7,350,000	補	沖縄県
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金	大屋 祐輔	病院長	2,568,000	補	沖縄県
新型インフルエンザ等患者入院医療機関施設・設備整備事業費補助金	大屋 祐輔	病院長	540,000	補	沖縄県
沖縄県災害医療対策事業補助金	大屋 祐輔	病院長	818,000	補	沖縄県

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
-------	-------	------	----	----------

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kinjo T, Toma H, Fujita J.	第一内科	Ascariasis Resulting from Swine- to-Human Transmission in Okinawa, Japan.	Am J Trop Med Hyg. 2022 Jun 15;106(6):1583-1584.	Case report
2	Nabeya D, Kinjo T, Ueno S, et. al.	第一内科	Characteristics of patients with viral infections of the lower respiratory tract: A retrospective study.	Medicine (Baltimore). 2022 Sep 23;101(38):e30819.	Original Article
3	Kinjo T, Ikehara Y, Misumi T, et al.	第一内科	Study Protocol for a Randomized Double-blind Placebo-controlled Phase 2 Clinical Trial to Assess Anti-inflammatory Effect of Colchicine (DRC3633) in Mild to Moderately Severe COVID-19 Patients (DRC-06C)	臨床薬理, 53, 6, 199-205, 2022/11	Original Article
4	Arakaki S, Ono S, Kawamata F, et al.	第一内科	Fatal acquired coagulation factor V deficiency after hepatectomy for advanced hepatocellular carcinoma as a possible immune checkpoint inhibitor-related adverse event: a case report	Surg Case Rep . 2023 Feb 2;9(1):16.	Case report
5	Hokama A.	光学医療診療部	Megaduodenum in systemic sclerosis.	Rheumatology (Oxford). 2022 Jul 6;61(7):e194.	Case report
6	Iraha A, Irei Y, Kinjo T, et al.	光学医療診療部	Jejunal Arteriovenous Malformation Detected by Video Capsule Endoscopy.	Chonnam Med J. 2022 May;58(2):75-76.	Case report
7	Hokama A, Kanemoto M, Hagiwara K, et al.	光学医療診療部	Radiation Ileitis Leading to Enterovesical Fistula.	Chonnam Med J. 2022 May;58(2):77-78.	Case report
8	Hokama A.	光学医療診療部	Hide-bound Bowel Sign in Systemic Sclerosis.	J Rheumatol. 2022 Jun;49(6):651.	Case report

9	Hokama A.	光学医療診療部	String sign of Kantor in Crohn's disease.	QJM. 2022 Jul 9;115(7):474.	Case report
10	Hokama A.	光学医療診療部	Spontaneous passage of an impacted gallstone at the ampulla of Vater: "Laying-an-egg" sign.	Rev Gastroenterol Mex (Engl Ed). 2022 Jul-Sep;87(3):384-385.	Case report
11	Hokama A, Hashioka H, Miyagi K, et al.	光学医療診療部	Gastric Metastasis from Primary Lung Squamous Cell Carcinoma Presenting a "Bull's-Eye" Appearance.	Chonnam Med J. 2022 Sep;58(3):127-128.	Case report
12	Iraha A, Kanemoto M, Hokama A.	光学医療診療部	All that elongates is not a polyp.	Clin Endosc. 2022 Nov;55(6):824-825.	Case report
13	Hokama A, Iraha A.	光学医療診療部	Jejunal lymphangioma.	Rev Esp Enferm Dig. 2023 Feb;115(2):103-104.	Case report
14	Ohira T, Hokama A.	光学医療診療部	Duodenal nodularity with villous flattening in common variable immunodeficiency.	Rev Esp Enferm Dig. 2023 Jan;115(1):53-54.	Case report
15	Nakachi S, Okamoto S, Tamaki K, et al.	第二内科	Impact of anti-diabetic sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors on tumor growth of intractable hematological malignancy in humans.	Biomedicine & Pharmacotherapy. 2022 May; 149: 112864.	Original Article
16	Akamine Y, Millman JF, Uema T, et al.	第二内科	Fermented brown rice beverage distinctively modulates the gut microbiota in Okinawans with metabolic syndrome: a randomized controlled trial.	Nutrition Research. 2022 Jul; 103: 68-81.	Original Article
17	Uema T, Millman JF, Okamoto S, et al.	第二内科	Profile of gut microbiota and serum metabolites associated with metabolic syndrome in a remote island most afflicted by obesity in Japan.	Scientific Reports. 2022 Oct 14; 12(1): 17292.	Original Article
18	Takemoto N, Millman JF, Uema T, et al.	第二内科	Analysis of spot urine biomarkers and association with body weight in Japanese elementary schoolchildren.	European Journal of Pediatrics. 2022 Nov; 181(11): 3879-3888.	Original Article

19	Masuzaki H, Uema T, Millman JF, et al.	第二内科	The power of gut-brain interaction as a promising target for healthy longevity.	Glycative Stress Research. 2022 Apr; 9: 1-6.	Review
20	Miyagi R, Nakachi S, Tamaki Y, et al.	第二内科	Clinically amyopathic dermatomyositis manifested after the allogeneic haematopoietic stem cell transplantation: Case presentation and literature review.	Mod Rheumatol Case Rep. 2023 Jan 3; 7(1): 102-107.	Review
21	Oshiro N, Kohagura K, Kanamitsu T, et al.	第三内科	Age-related Changes in Renal Arterio-Arteriosclerosis in Kidney Disease: Renal Biopsy-based Study	Kidney Int Rep. 2022 Sep 3;7(9):2101-2104.	Letter
22	Miyagi T, Yamazato M, Nakamura T, et al.	第三内科	Power spectral analysis of heart rate variability is useful as a screening tool for detecting sympathetic and parasympathetic nervous dysfunctions in Parkinson's disease	BMC Neurol, 2022 Sep 10;22(1):339.	Original Article
23	Kanemitsu T, Kohagura K, Zamami R, et al.	第三内科	Association of urinary angiotensinogen with renal arteriolar remodeling in chronic kidney disease	J Hypertens.2022 Apr 1;40(4):650-657.	Original Article
24	Kohagura K	血液浄化療法部	The public impact of hypertension and diabetes: a powerful tag for the development of chronic kidney disease	Hypertens Res: 2023 Feb;46(2):339-340.	Others
25	Katsuren E, Kohagura K, Kinjyo T, et al.	第三内科	Acquired factor V inhibitor with erythema and eosinophilia in a patient with end-stage renal disease	CEN Case Rep. 2023 Feb;12(1):91-97.	Case report
26	Uesato Y, Kawamata F, Takatsuki M, at al	第一外科	Human chorionic gonadotropin- β promotes pancreatic cancer progression via the epithelial mesenchymal transition signaling pathway	J Gastrointest Oncol. 2022 Jun; 13(3): 1384-1394.	Original Article
27	Aoki Y, Tome Y, Oshiro H, et al..	整形外科	Veno-accompanying artery fasciocutaneous flaps following wide excision of soft tissue tumors in the lower legs	J Orthop Sci. 2022 Sep;27(5):1126-1131.	Original Article
28	Aoki Y, Tome Y, Han Q, et al.	整形外科	Deletion of MTAP highly sensitizes osteosarcoma cells to methionine restriction with recombinant methioninase	Cancer Genomics Proteomics. 2022 May-Jun;19(3):299-304.	Original Article

29	Chinen S, Okubo H, Onaka K, et al.	整形外科	Bone morphology in ulnar impaction syndrome: A radiographic evaluation	J Hand Surg Asian Pac Vol. 2022 Jun;27(3):491-498.	Original Article
30	Aoki Y, Masaki N, Tome Y, et al.	整形外科	Non-invasively imageable tibia-tumor-fragment implantation experimental-bone-metastasis mouse model of GFP-expressing prostate cancer	In Vivo. 2022 Jul-Aug;36(4):1647-1650.	Original Article
31	Kinjo H, Shimabukuro T, Yamakawa C, et al.	整形外科	C2 radiculopathy due to a retro-odontoid pseudotumor: A case report	Spine Surg Relat Res. 2022 Jul 27; 6(4): 412-415.	Case report
32	Aoki Y, Tome Y, Oshiro H, et al.	整形外科	Wide excision alone for elderly patients aged > 70 years old with soft tissue sarcomas	Medicine (Baltimore). 2022 Sep 9;101(36):e30127.	Original Article
33	Aoki Y, Han Q, Tome Y, et al.	整形外科	Reversion of methionine addiction of osteosarcoma cells to methionine independence results in loss of malignancy, modulation of the epithelial-mesenchymal phenotype and alteration of histone-H3 lysine-methylation	Front Oncol. 2022 Nov 3;12:1009548.	Original Article
34	Oshiro H, Tome Y, Tsuha Y, et al.	整形外科	Packing with alpha-tricalcium phosphate followed by curettage and phenol-ethanol ablation for appendicular giant cell tumor of bone	Medicine (Baltimore). 2022 Dec 9;101(49):e32055.	Original Article
35	Tsuha Y, Oshiro H, Mizuta K, et al.	整形外科	Reconstruction of the lateral collateral ligament using the plantaris tendon after wide excision of soft tissue sarcoma of the knee: A case report	Mol Clin Oncol. 2023 Mar; 18(3): 23.	Case report
36	Aoki Y, Han Q, Kubota Y, et al.	整形外科	Oncogenes and methionine addiction of cancer: Role of c-MYC	Cancer Genomics Proteomics. 2023 Mar-Apr;20(2):165-170.	Original Article
37	Yoshikawa Y, Yamakawa C, Shimabukuro T, et al.	整形外科	Progressive scoliosis associated with microphthalmia with limb anomalies: A case report	Medicine (Baltimore). 2023 Mar 24;102(12):e33414.	Case report
38	Yusuke Shimizu, Edward Hosea Ntege, Hiroshi Sunami	形成外科	Current regenerative medicine-based approaches for skin regeneration	Regenerative Therapy 21, 2022 Jun 15;21:73-80.	Review

39	Yusuke Shimizu, Shogo Kasai, Reiko Asato et al.	形成外科	Revised donor site skin incision technique for a multivector functioning muscle transfer using the serratus anterior muscle for smile reanimation.	Journal of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery. 2022 Apr;75(4):1497-1520	Letter
40	Yusuke Shimizu, Edward Hosea Ntege, Hiroshi Sunami et	形成外科	Regenerative medicine strategies for hair growth and regeneration: A narrative review of literature.	Regenerative Therapy 21, 2022 October 15; 527-539	Review
41	Ooyama T, Shimoji Y, Nakasone T, et al.	産婦人科	Effects of Pegylated Liposomal Doxorubicin and CA125 Level Variability Analysis in Platinum refractory/resistant Recurrent Ovarian Cancer. Anticancer Res. 2022 Jun;42(6):301	Anticancer Res. 2022 Jun;42(6):3017-3022. doi: 10.21873/anticancerres.15786.	Original Article
42	Kise S, Arakaki Y, Kudaka W, et al.	産婦人科	Sarcopenia Is an Independent Prognostic Factor for Squamous Cell Carcinoma of the Cervix Treated With Concurrent Chemoradiotherapy.	Anticancer Res. 2022 Oct;42(10):4887-4893. doi: 10.21873/anticancerres.15994.	Original Article
43	Kinjyo Y, Kinjo T, Mekar K, et al.	産婦人科	Risk Factors of Preterm Birth in Okinawa Prefecture, the Southernmost Island Prefecture of Japan.	Matern Child Health J. 2023 Jan;27(1):92-100. doi: 10.1007/s10995-022-03530-2.	Original Article
44	Taira Y, Shimoji Y, Arakaki Y, et al.	産婦人科	Comprehensive genomic profiling for therapeutic decision and identification of gene mutation in uterine endometrial dedifferentiated carcinoma.	Case Rep Oncol 2022 Jan-Apr;15:46-55	Case report
45	Nakasone T, Taira Y, Nakamoto T, et al.	産婦人科	False-negative findings for cardiac metastasis from cervical cancer on fluorodeoxyglucose-positron emission tomography/computed tomography	Obstet Gynecol Case Rep, 2022 Apr; 8 (4); 16: 2022.	Case report
46	Nitta H, Kinjo T, Kinjyo Y, et al.	産婦人科	Fetal ovarian cyst with prenatal torsion of the pedicle diagnosed in the third trimester: A case report.	Case Rep Womens Health. 2022 Oct; 36: e00443.	Case report
47	Taira Y, Yara N, Kinjo Y, et al.	産婦人科	Low-set umbilicus in a pregnant woman with bladder pseudoexstrophy: A case report.	Case Rep Womens Health. 2022 Nov 12;36:e00467.	Case report
48	Hashiramoto S, Kinjo T, Tanaka SE, et al.	産婦人科	Vaginal Microbiota and Pregnancy Outcomes of Patients with Conization Histories.	J Womens Health (Larchmt). 2023 Mar;32(3):375-384.	Original Article

49	Watanabe T, Tamashiro N, Shimoji Y, et al.	産婦人科	Prognostic Factors of Cervical Adenocarcinoma With Positive Pelvic Lymph Node Metastases Without Preoperative Lymph Node Enlargement Treated With Radical Hysterectomy.	Cancer Diagn Progn. 2023 Jan 3;3(1):96-101.	Original Article
50	Shimabukuro Wataru, Hamada Satoru, Oshiro Tokiko et al.	小児科	High serum cystatin C levels in juvenile myelomonocytic leukemia patients without abnormal kidney function.	Pediatr Nephrol. 2022 Jul;37(7):1687-1691.	Others
51	Oki Yuzuki, Yoshida Tomohida, Yogi Akira, et al.	小児科	A Neonatal Case of Mild Encephalopathy/Encephalitis with a Reversible Splenic Lesion.	Child neurology open•2022 Aug 1; 9: 2329048X221111716.	Case report
52	Abe Hitomi, Hamada Satoru, Sakiyama Hideki, et al.	小児科	Myeloid sarcoma concurrent with de novo KMT2A gene-rearranged infantile acute lymphoblastic leukemia	Pediatric blood & cancer• 2022 Apr;69(4):e29573.	Letter
53	Haruka Uehara, Sayaka Yamaguchi, Kyoko Fukai et al.	皮膚科	Massive squamous cell carcinoma arising from hidradenitis suppurativa with marked hypercalcemia and neutrophilia	JAAD Case Rep. 2022 Nov; 29: 9-10.	Letter
54	Takuya Miyagi, Yasumasa Kanai, Kenta Murotani et al	皮膚科	Itch as a critical factor in impaired health-related quality of life in patients with plaque psoriasis achieving clear or almost-clear skin: Analysis of the single-arm, open-label, multicenter, prospective ProLOGUE study.	JAAD International :2022 Jun 22;8:146-153.	Original Article
55	Haruka Uehara, Sayaka Yamaguchi, Kotaro Komatsu et al.	皮膚科	Successful treatment of subcutaneous Purpureocillium lilacinum infection with fosravuconazole.	J Dermatol 2023 Mar;50(3):e104-e105.	Letter
56	Ashikari A, Miyazato M, Nakamura K, et al.	腎泌尿器外科	Obesity and Voiding Parameters in a Community-Based Population of Okinawa, Japan: Kumejima Digital Health Project (KDHP).	Metabolites 2022 May 23;12(5):468.	Original Article
57	Imanaga N, Koizumi H	眼科	Reply to “Comment on Clinical Factors Related to Loculation of Fluid in Central Serous Chorioretinopathy”.	American Journal of Ophthalmology, 2022 Sep;241:295.	Letter
58	Imanaga N, Terao N, Sonoda S, et al.	眼科	Relationship Between Scleral Thickness and Choroidal Structure in Central Serous Chorioretinopathy.	Investigative Ophthalmology & Visual Science, 2023 Jan 3;64(1):16.	Original Article

59	Terao N, Imanaga N, Wakugawa S, et al.	眼科	Ciliochoroidal Effusion in Central Serous Chorioretinopathy	Retina.2022 Apr 1;42(4):730-737.	Original Article
60	Tsuchiya N, Tsubakimoto M, Nishie A, et al.	放射線科	Kerley A-lines represent thickened septal plates between lung segments in patients with lymphangitic carcinomatosis: confirmation using 3D-CT lung segmentation analysis.	Japanese Journal of Radiology. 2022 Apr; 40: 367-375	Original Article
61	Heianna J, Makino W, Hirakawa H, et al.	放射線科	Therapeutic efficacy of selective intra-arterial chemoradiotherapy with docetaxel and nedaplatin for fixed bulky nodal disease in head and neck cancer of unknown primary.	European archives of oto-rhino-laryngology. 2022 Jun; 279: 3105-3113	Original Article
62	Heianna J, Makino W, Hirakawa H, at al.	放射線科	Therapeutic efficacy of selective intraarterial chemoradiotherapy with docetaxel and nedaplatin for human papilloma virus-negative oropharyngeal cancer.	Auris Nasus Larynx. 2022 Jun; 49: 468-476	Original Article
63	Heianna J, Makino W, Hirakawa H, at al.	放射線科	Therapeutic efficacy of intra-arterial docetaxel and nedaplatin infusion concomitant with radiotherapy for T4 maxillary sinus squamous cell carcinoma.	International journal of oral and maxillofacial surgery. 2022 Sep;51(9):1123-1130.	Original Article
64	Sho Miyamoto, Takahiro Goto, Jumpei Shirakawa	歯科口腔外科	Odontogenic keratocyst in the mandibular condyle base region: A case report	Experimental and Therapeutic Medicine. 2023 Mar; 25(3): 141.	Case report
65	Makoto Murahashi, Edward H. Ntege, Masaru Higa	歯科口腔外科	Management of temporomandibular joint diseases: a rare case report of coexisting calcium pyrophosphate crystal deposition and synovial chondromatosis	BMC Oral Health.2022 Dec 31;22(1):662.	Case report
66	Sho Miyamoto, Edward H. Ntege, Yasutsugu Chinen	歯科口腔外科	An unusual case of oral surgical management in a patient with isovaleric acidemia and schizophrenia: A case report	Biomedical Reports.2022 Aug; 17(2): 64.	Case report
67	Sho Miyamoto, Hiromasa Hasegawa, Tomoko Tamaki	歯科口腔外科	Peripheral dentinogenic ghost cell tumor in the mandibular anterior region	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery Medicine and Pathology. 2022 Jul; 34(4)	Case report
68	Nagamine.S Kamijo.T Ashikari.A et al.	リハビリテーション部	Influence of cerebral infarction on both bladder and urethral activities and changes after tramadol administration in rats	Neurourology and Urodynamics.2022 Nov;41(8):1679-1691.	Original Article

69	Kohagura K.	血液浄化療法部	The public health impact of hypertension and diabetes:a powerful tag team for the development of chronic kidney disease.	Hypertension Research.2023 Feb;46(2):339-340.	Others
70	Ohshiro N, Kohagura K, Kanamitsu T, et al.	血液浄化療法部	Age-related Changes in Renal Arterio-Arteriosclerosis in Kindney Disease:Renal Biopsy-based Study.	Kidney Tnternational Reports.2022 Jun 10;7(9):2101-2104.	Letter
71	Kanamitsu T, Kohagura K, Zamami R, et al.	血液浄化療法部	Association of urinary angiotensinogen with renal arteriolar remodeling in chronic kidney disease.	Jounal of Hypertension.2022 Apr 1;40(4):650-657.	Original Article
72	Katsuren E, Kohagura K, Kinjyo T, et al.	血液浄化療法部	Acquired factor A inhibitor with erythema and eosinophilia in a patient with end-stage renal desease.	CNE Case Reports.2023 Feb;12(1):91-97.	Case report

計72件

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	當眞弘, 金城武士, 松田賢也, 他	第一内科	沖縄における最近の回虫症について	Clinical Parasitology, Vol. 33 No. 1 2022, 76-78	Case report
2	山城朋子, 原永修作, 知花 凜, 他	第一内科	気管支鏡下ドレナージにより診断しえた Mycobacterium fortuitum による感染性肺嚢胞の1例	結核 Vol. 97 No. 5 291-295 2022. 7	Case report
3	東江大樹, 新里雅人, 岸本信三, 他	光学医療診療部	内視鏡所見上4年間進行を認めなかった遺伝性びまん性胃癌の1例	Gastroenterological Endoscopy 64(11), 2371-2377 2022/11	Case report

4	金城 徹, 萩原啓太, 兼元萌実, 他	光学医療診療部	沖縄県の一施設におけるコロ ナ禍の内視鏡診療	日本大腸検査学会雑誌 38, 2, 78-84, 2022. 4.	Original Article
5	古賀絵莉香, 伊良波淳, 新垣和也, 他	光学医療診療部	関節リウマチに対しアバタ セプト投与中に潰瘍性大腸 炎類似の大腸炎を認めた1 例.	Gastroenterological Endoscopy 64, 1469- 1474 2022/8	Case report
6	東江大樹, 新里雅人, 岸本信三, 他	光学医療診療部	内視鏡所見上4年間進行を認 めなかった遺伝性びまん性胃 癌の1例	Gastroenterological Endoscopy 64(11), 2371-2377 2022/11	Case report
7	益崎裕章	第二内科	明日から使える! 2型糖尿病・ 肥満症をめぐる最近のトピッ クス	伏見医報 2022年5月15 日	Original Article
8	益崎裕章, Millman Jasmine F., 上間次己, 他	第二内科	体質医学からみたこれからの 先制医療 腸脳連関と生活習 慣病	日本体質医学会雑誌 2022年6月	Original Article
9	上間次己, 山城清人, 仲村武裕 他	第二内科	耐糖能異常のリスク上昇に 関わる腸内細菌叢組成の探 索的解析	日本内分泌学会雑誌 2022年6月7日	Original Article
10	益崎裕章	第二内科	食・運動・マインドを変える! 寛解(Remission)を見据えた2 型糖尿病診療	鹿児島市医報 2022年6月20日	Original Article
11	上原盛幸, 伊敷洋平, 照屋理子, 他	第二内科	IgA腎症を合併した甲状腺 クリーゼの一例	日本内分泌学会雑誌 2022年4月1日	Case report
12	屋比久賢光, 久高将太, 玉城敦子, 他	第二内科	膵がんと同時期に急性発症1 型糖尿病の合併が疑われた1 例	糖尿病 2022年5月12日	Case report
13	玉城敦子, 山城清人, 中山良朗, 他	第二内科	抗LCAT抗体の出現に伴い著明 な低HDL-C血症を来した症例	日本内分泌学会雑誌 2022年6月7日	Case report
14	岡本土毅, 益崎裕章, 箕越靖彦	第二内科	【特集 味覚・食嗜好性研究 の最前線】炭水化物嗜好性 を決定するのはCRHである	Agricultural Biotechnology 2022年10月14日	Case report
15	Millman Jasmine F., 岡本土毅, 野村育美, 他	第二内科	【食の謎にせまる】オリーブ オイルの謎	消化器病サイエンス 2022年12月	Original Article
16	益崎裕章	第二内科	二次性肥満	肥満症診療ガイドライン 2022 2022年12月	Original Article
17	益崎裕章	第二内科	2型糖尿病診療をめぐる最近 の知見とGLP-1受容体作用薬 の新展開	糖尿病 2023年1月	Original Article
18	益崎裕章	第二内科	肥満症	今日の治療指針 第65巻 2023 2023年1月	Original Article

19	益崎裕章	第二内科	メタボリックシンドローム	わかりやすい内科学 第5版 2023年1月10日	Case report
20	益崎裕章, 上間次己, ジャスミン F. ミルマ ン 他	第二内科	腸脳力を活かした質の高い 健康長寿実現のアプローチ	Glycative Stress Research. 2022年4月5日	Original Article
21	屋比久賢 光、伊敷洋 平、 照屋理子 他	第二内科	緩徐進行型1型糖尿病と膵が んを同時期に合併した1例	糖尿病 2023年1月	Case report
22	益崎裕章	第二内科	腸脳連関を活かす2型糖尿病 診療とGLP-1受容体作動薬の ポジショニング	日本内分泌学会雑誌 2023年2月	Original Article
23	新崎 義人, 稲福 齊, 前 田 達也, 他	第三内科	Left Ventricular Assist Device (LVAD) 装着患者におけ る術後歩行自立日数に関する 臨床的特徴	心臓(0586-4488)54巻11 号 Page1250-1261	Original Article
24	井関 邦敏, 比嘉 啓, 古波蔵 健 太郎	第三内科	沖縄県における透析療法50年 史 (1971~2020年)	沖縄透析研究50 (Okinawa Dialysis Study: OKIDS50). 透析 会誌55 (11) :627-633, 2022	Review
25	座間味 亮, 古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	【ライフステージとCKD】 高血圧とCKD 腎硬化症に おける残存ネフロンの上昇 濾過	腎臓内科16号5号: 562- 569, 2022.	Review
26	大城 菜々 子, 古波蔵 健太郎, 大 屋 祐輔	第三内科	慢性腎臓病では若年期から 腎小細胞脈硬化がみられる	血管45巻1号: 48, 2022.	Review
27	波平 幸裕, 大屋 祐輔	第三内科	【頭痛診療のUp to Date】二 次性頭痛の診療 高血圧	臨牀と研究(0021- 4965)99巻7号 Page867- 870	Others
28	又吉 哲太 郎, 大屋 祐 輔	第三内科	【最新臨床脳卒中学(第2版) 上-最新の診断と治療-】危険 因子 高血圧 高血圧治療ガ イドライン2019	日本臨床(0047-1852)80 巻増刊1 最新臨床脳卒 中学(上) Page216-220	Others
29	石原綾乃	第三内科	【心不全栄養バイブル】第6 章 心不全と合併疾患におけ る栄養管理のポイント	高血圧合併心不全の栄 養管理 page180-186中 外医学社 発行2022年7 月15日 1版1刷	Others
30	石原綾乃, 大屋祐輔	第三内科	【包括的心臓リハビリテー ション】第1章 心臓リハビ リテーション総論 C. 心臓 リハビリテーションにおける 重要な概念	虚血性心疾患の一次予 防と二次予防 page19- 23. 南江堂 発行2022 年6月25日	Others
31	座間味亮	血液浄化療法部	AKIに有用な尿・採血検査所 見	レジデントノート(ISSN 1344-6746) 24巻12号 Page2049-2054	Others
32	崎間洋邦	第三内科	【最新臨床脳卒中学(第2版) 下-最新の診断と治療-】その 他の脳血管障害と類縁疾患 高血圧性脳症	日本臨床80巻増刊2最新 臨床脳卒中学(下), Page435 - 439	Others
33	崎間洋邦, 大屋祐輔	第三内科	頸動脈狭窄症	循環器疾患最新の治療 2022 - 2023, Page357- 359.	Others

34	高槻光寿、大野慎一郎、川俣太、他	第一外科	【高難度肝胆膵外科アトラス2022】肝臓 生体肝移植レシピエント手術	手術 76 (4) : 531-540, 2022 Apr	Review
35	高槻光寿、上里安範、大野慎一郎	第一外科	【肝移植手術を再考する】レシピエント手術における胆道再建 -胆道胆管吻合、胆管空腸吻合	手術 77 (1) :77-83, 2023 Jan	Review
36	大野慎一郎、高槻光寿	第一外科	【ラバ肝を極める！】困難症例に対するラバ肝 胆のう癌を否定できない隆起性病変に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術（全層胆摘）	臨床外科77 (6) : 711-716, 2022. Jun	Review
37	前田達也、安藤美月、喜瀬勇也、他	第二外科	膵十二指腸動脈瘤に対する外科治療の検討	心臓血管外科学会、2022年4月	Original Article
39	水田康平、高江洲美香、宮田佳英、et al.	整形外科	大腿骨頸基部骨折に対する骨接合術と人工骨頭挿入術の治療成績の検討.	骨折. 2022;44(1):71-75.	Original Article
40	当真孝, 山口浩, 呉屋五十八, et al.	整形外科	上腕骨大結節骨折における結節転位が肩関節可動域に与える影響.	整形外科と災害外科. 2022;71(2):179-182.	Original Article
41	伊藝尚弘, 池間正英, 普天間朝拓, et al.	整形外科	肩甲骨体部・頸部骨折の治療成績.	骨折. 2022;44(3):623-627.	Original Article
42	翁長正道, 仲宗根哲, 伊藝尚弘, et al.	整形外科	DAA-THAにおける3Dテンプレートと2Dテンプレートのカップ設置位置の違い DRR画像を用いた調査.	Hip Joint. 2022;48:292-296.	Original Article
43	鷺崎郁之, 仲宗根哲, 翁長正道, et al.	整形外科	人工骨頭置換術における上方アプローチと後方アプローチの術後成績.	Hip Joint. 2022;48:566-570.	Original Article
44	金城英雄, 島袋孝尚, 山川慶, et al.	整形外科	C1高位圧迫性脊髄・神経症に対して固定術を併用しない環椎後弓切除を施行した9例.	整形外科と災害外科. 2022;71(3):588-591.	Original Article
45	津覇雄一, 山口浩, 当真孝, et al.	整形外科	肩関節脱臼骨折における骨頭-腋窩動脈間距離.	整形外科と災害外科. 2022;71(4):869-871.	Original Article
46	水田康平, 仲宗根素子, 高江洲美香, et al.	整形外科	Pulseless pink handを伴う小児上腕骨顆上骨折に対し観血的手術を行った1例.	整形外科と災害外科. 2022;71(1):74-77.	Case report
47	翁長正道, 仲宗根哲, 石原昌人, et al.	整形外科	高度変形を伴うCrowe3脱臼股のTHAに対して実物大立体模型による術前シミュレーションが有用であった1例.	整形外科と災害外科. 2022;71(2):209-212.	Case report
48	当真孝, 山口浩, 呉屋五十八, et al.	整形外科	片側上肢切断後の対側腱板断裂性関節症の1例.	整形外科と災害外科. 2022;71(3):394-397.	Case report
49	水田康平, 池間正英, 橋本雄太, et al.	整形外科	多発性軟骨性外骨腫症による足関節外反変形に対して、骨端線成長抑制術を行った1例.	整形外科と災害外科. 2022;71(4):747-750.	Case report

50	渡部俊陽, 平良祐介, 友寄江梨 佳, et al.	産科婦人科	広汎子宮全摘術を行った骨盤 リンパ節陽性子宮頸部腺癌の 治療成績.	沖縄産科婦人科学会誌 2022 Mar; 44: 5-12.	Original Article
51	上原園美, 金城淑乃, 大木悠司, et al.	産科婦人科	当科における I 型糖尿病合 併妊娠の検討.	沖縄産科婦人科学会誌 2022 Mar; 44: 13-19.	Original Article
52	宮里寛奈, 宮城真帆, 宜保敬 也, et al.	産科婦人科	当院における POI 症例の 現状と課題.	沖縄産科婦人科学会誌 2022 Mar; 44: 49-53	Original Article
53	友寄江梨 佳, 仲本朋 子, 金城淑 乃, et al.	産科婦人科	妊娠中に先行化学療法を施 行した子宮頸癌の一例 — 当科の過去の症例と比較し て—	沖縄産科婦人科学会誌 2022 Mar; 44: 69-75	Case report
54	仲村理恵, 山田久子, 下地裕子, et al.	産科婦人科	ガートナー嚢胞を合併した アンドロゲン不応症候群の一 例.	沖縄産科婦人科学会誌 2022 Mar; 44: 123-132	Case report
55	知念安紹, 仲村貞郎, 名嘉山賀 子, 他	小児科	沖縄県の新生児タンデムマス スクリーニング開始前後の脂 肪酸代謝異常症	日本マススクリーニン グ学会誌・第32巻 (3 号) 301-307、2022.	Original Article
56	中西浩一	小児科	小児腎臓病学, Alport症候群 の小児に対するアンジオテ ン変換酵素 (ACE) 阻害薬 やアンジオテンシン II 受容体 拮抗薬 (ARB) は有効か?	小児科診療, 中外医学 社, 東京, pp336-340, 分担執筆, 2022.	Review
57	中西浩一	小児科	VI 先天性・遺伝性腎疾患 遺伝性疾患 Alport症候	日本臨牀 領域別症候 群シリーズNo. 23 腎 臓症候群 (第3版) —そ の他の腎臓疾患を含め て— II, 日本臨牀社, 東京, pp5-9, 2022.	Review
58	知念安紹	小児科	II. 先天代謝異常-22ムコ多 糖症	小児内科 vol.54 増 刊号 pp154-160, 2022.	Review
59	知念安紹, 中西浩一	小児科	新生児マススクリーニング対 象疾患拡充に向けて ~新規 の新生児スクリーニング検査 (ライソゾーム病、脊髄性筋 萎縮症、重症複合免疫不全 症) 体制のご支援について	沖縄小児科医会会報 40 号 34-41、2022.	Original Article
60	中西浩一	小児科	特集 知っておくべき周産 期・新生児領域の遺伝学的検 査を展望する 各論 遺伝性 腎疾患	周産期医学, 52 (5) :747-750. 2022.	Review
61	中西浩一	小児科	良性家族性血尿 (菲薄基底膜 病)	週刊日本医事新報【特 集】CKDにおける骨粗鬆 症治療薬の使い方, N05121:43-44, 2022.	Review
62	中西浩一	小児科	特集 嚢胞腎【嚢胞性腎疾患 の病態・疫学】ARPKDの病因 と病態	腎と透析, 93 (4) :489-492. 2022.	Review

63	知念安紹	小児科	特集 知っておくべき周産期・新生児領域の遺伝学的検査を展望する. 各論 循環器疾患—Williams 症候群, 22q11.2 欠失症候群, Alagille 症候群	周産期医学 52 (5) : 729-733, 2022.	Review
64	中西浩一	小児科	特集 成人患者における小児期発生慢性疾患,	小児内科, 54 (9) :1476-1478, 2022.	Review
65	中西浩一	小児科	特集 IgA腎症—最新の知見【治療】小児の治療	腎と透析, 92 (6) :1063-1067. 2022.	Review
66	中西浩一	小児科	特集 多発性嚢胞腎 常染色体潜性多発性嚢胞腎の基礎と臨床—up date.	医学と薬学, 79 (7) :927-934. 2022. 6. 27	Review
67	中西浩一	小児科	特集 小児の腎疾患を見つめなおす—基礎と臨床4 3歳児検尿・学校検尿と小児慢性腎疾患診療	小児科, 63 (6) :603-610. 2022.	Review
68	下地 志月, 山口 さやか, 荻谷 嘉之, 他	皮膚科	Down症候群の女兒に生じた Milia-like idiopathic calcinosis cutisの1例.	日本小児皮膚科学会雑誌 2022年6月	Case report
69	小濱 望, 宮城 拓也, 高橋 健造	皮膚科	【新規治療-炎症性-】リサンキズマブで足趾炎が改善した乾癬性関節炎.	皮膚病診療 2022年6月	Case report
70	山口 さやか, 栗澤 遼子, 高橋 健造	皮膚科	【ウイルスと皮膚疾患-新しい考え方】(Part4)知っておきたいウイルスの話題 Kaposi肉腫ウイルス.	Visual Dermatology 2022年10月	Original Article
71	大嶺 卓也, 高橋 健造	皮膚科	【食生活と皮膚疾患-どのように食事指導するか?】(Part1.)食事が病態修飾因子となる疾患 食事指導からの治療(治療2) 食生活と化膿性汗腺炎.	Visual Dermatology 2022年6月	Original Article
72	高橋 健造, 内海 大介	皮膚科	偏光フィルター下の光学顕微鏡観察によるネザートン症候群の新規診断手法.	日本小児皮膚科学会雑誌 2022年2月	Original Article
73	鈴木 幹男, 平川 仁	耳鼻咽喉科	【ウイルス感染症に強くなる!-予防・診断・治療のポイント】ヒト乳頭腫ウイルスと関連腫瘍	耳鼻咽喉科・頭頸部外科94巻8号 Page655-659(2022. 07)	Review
74	鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	鼻科学の進歩 鼻副鼻腔腫瘍手術の進歩	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報125巻8号 Page1253-1259(2022. 08)	Review
75	田中 克典, 真栄田 裕行, 金城 秀俊, 他	耳鼻咽喉科	頭頸部癌患者に対するニボルマブの使用経験	耳鼻咽喉科臨床115巻10号 Page875-881(2022. 10)	Original Article
76	田中克典, 真栄田裕行, 嘉陽祐紀, 他	耳鼻咽喉科	下咽頭に発生した紡錘細胞癌症例	耳鼻と臨床 68巻6号 Page419~425(2022. 11)	Original Article

77	鈴木 幹男, 當山 昌那, 比嘉 朋代, 他	耳鼻咽喉科	好酸球性副鼻腔炎術後の好酸球性多発血管炎性肉芽腫症発症例	耳鼻咽喉科臨床115巻11号 Page967-973(2022. 11)	Original Article
78	真栄田 裕行, 嘉陽 祐紀, 金城 秀俊, 他	耳鼻咽喉科	【耳鼻咽喉科手術における術中出血を減らす工夫】副咽頭間隙腫瘍手術	耳鼻咽喉科1巻4号 Page493-501(2022. 11)	Review
79	真栄田 裕行	耳鼻咽喉科	【見逃すな!緊急手術症例-いつ・どのように手術適応を見極めるか】その他 異物	耳鼻咽喉科・頭頸部外科94巻13号 Page1151-1156(2022. 12)	Review
80	金城 賢弥, 真栄田 裕行, 比嘉 朋代, 他	耳鼻咽喉科	画像所見が診断の一助となったCarotidynia例	耳鼻咽喉科臨床116巻2号 Page147-151(2023. 02)	Original Article
81	仲宗根 和究, 真栄田 裕行, 鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	輪状軟骨開窓術による上気道管理	耳鼻咽喉科展望66巻1号 Page24-28(2023. 02)	Original Article
82	力石洋平, 新垣淑邦, 古泉英貴	眼科	オミデネパグイソプロピル点眼液の有効性と安全性の12カ月成績.	あたらしい眼科. 2022 Nov; 39: 1530-1533	Original Article
83	古泉英貴	眼科	マルチモーダルイメージングでひもとく網膜疾患.	あたらしい眼科. 2022 Jun; 39: 697-698	Review
84	澤口翔太, 古泉英貴	眼科	スリットランプ再考 スリットランプによる網膜硝子体の観察 硝子体観察にフォーカス.	眼科グラフィック. 2022 Apr; 11: 402-407 b	Review
85	湧川空子, 古泉英貴	眼科	抗VEGF薬の最新情報 ブロルシズマブ(ベオビュ)の特徴.	眼科. 2022 Oct; 64: 923-930	Review
86	宮良安宣, 古泉英貴	眼科	抗VEGF薬治療に必要な検査.	あたらしい眼科. 2022 臨増; 39: 261-265	Review
87	古泉英貴	眼科	日本の眼の難病-何がどこまでわかってきたのか 黄斑部毛細血管拡張症2型.	臨床眼科. 2023 Jan; 77: 64-70	Review
88	Kinjyo S, Heianna J, Iraha Y, 他.	放射線科	CTで術前診断し得たまれな漿膜下子宮筋腫茎捻転の1例.	臨床放射線. 2022 Nov; 67: 1679-1683	Case report
89	平田幸也, 樋口佳代子, 長尾俊孝, 他	病理部	耳下腺に発生した導管内癌の1例	日本臨床細胞学会雑誌 2022;61(6):431-437	Case report
90	新崎義人 稲福斉 前田達也	リハビリテーション部	Left Ventricular Assist Device(LVAD)装着患者における術後歩行自立日数に関する臨床的特徴	月刊心臓. 2022年11月;54号:1250-1261	Original Article
91	新崎義人 稲福斉 當山昌大, 他	リハビリテーション部	Ehlers-Danlos症候群(EDS)を合併した開心術後症例への心臓リハビリテーション介入の経験	理学療法沖縄. 2023年3月;24巻:15-21	Case report

92	中島信久	特命准教授	がん悪液質診療において cachexiaとrefractory cachexiaをどのように鑑別し 介入するか?	臨床栄養 141巻5号	Original Article
----	------	-------	---	-------------	------------------

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査委員会の役割・責務、意見の表示及び通知、迅速審査等に係る規程	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメント委員会の設置、利益相反アドバイザー・カウンセラーの設置、利益相反マネジメントの手続き、外部からの指摘への対応、秘密の保持 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 指針統合の概要、指針のポイント、倫理審査に係る手続きの要点・研究不正・利益相反管理等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院の「病める人の立場に立った質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。」という理念のもとに、各診療科において専門的な分野の症例等に対する知識や技術、関連学会が定める専門医の資格取得に関する研修及び教育を実施している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	438 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山本 和子	第一内科	教授	23 年	
前城 達次	第一内科	講師	27 年	
金城 徹	第一内科	助教	21 年	
仲村 秀太	第一内科	助教	19 年	
益崎 裕章	第二内科	教授	31 年	
仲地 佐和子	第二内科	講師	21 年	
森島 聡子	第二内科	准教授	28 年	
土井 基嗣	第二内科	助教	15 年	
岩淵 成志	第三内科	教授代行	37 年	
石田 明夫	第三内科	准教授	30 年	
山里 正演	第三内科	講師	29 年	
崎間 洋邦	第三内科	講師	20 年	
池宮城 秀一	第三内科	助教	20 年	
當間 裕一郎	第三内科	助教	19 年	
高槻 光寿	第一外科	教授	28 年	
野村 寛徳	第一外科	助教	25 年	
金城 達也	第一外科	講師	23 年	
大野 慎一郎	第一外科	助教	19 年	
古川 浩二郎	第二外科	教授	35 年	
石内 勝吾	脳神経外科	教授	38 年	
西田 康太郎	整形外科	教授	31 年	
當銘 保則	整形外科	准教授	22 年	
神谷 武志	整形外科	病院講師	25 年	
東 千夏	整形外科	病院講師	24 年	
仲宗根 哲	整形外科	病院講師	24 年	
金城 政樹	整形外科	診療講師	25 年	
大久保 宏貴	整形外科	助教	22 年	
島袋 孝尚	整形外科	助教	21 年	
仲宗根 素子	整形外科	助教	21 年	

銘苅 桂子	産科婦人科	教授（代理）	24年
久高 亘	産科婦人科	講師	25年
金城 忠嗣	産科婦人科	講師	23年
中西 浩一	小児科	教授	34年
浜田 聡	小児科	講師	26年
知念 安紹	小児科	准教授	31年
吉田 朝秀	小児科	准教授	27年
金城 紀子	小児科	助教	36年
仲村 貞郎	小児科	助教	19年
高橋 健造	皮膚科	教授	37年
山口 さやか	皮膚科	講師	19年
宮城 拓也	皮膚科	助教	16年
林 健太郎	皮膚科	助教	16年
斎藤 誠一	腎泌尿器外科	教授	39年
中西 昌太郎	腎泌尿器外科	助教	18年
木村 隆	腎泌尿器外科	助教	17年
鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	教授	37年
古泉 英貴	眼科	教授	25年
山内 遵秀	眼科	診療講師	20年
新垣 淑邦	眼科	診療講師	24年
西江 昭弘	放射線科	教授	28年
中村 博幸	歯科口腔外科	教授	28年
和田 直樹	病理診断科	教授	20年
梅村 武寛	救急科	教授	34年
古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	准教授	30年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

<p>① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）</p>												
<p>・研修の主な内容【看護師特定行為研修】</p> <table><tr><td>呼吸器（気道確保に係るもの）関連</td><td>5名</td></tr><tr><td>呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連</td><td>6名</td></tr><tr><td>動脈血液ガス分析関連</td><td>10名</td></tr><tr><td>栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連</td><td>10名</td></tr><tr><td>血糖コントロールに係る薬剤投与関連</td><td>1名</td></tr><tr><td>精神及び神経症状に係る薬剤投与関連</td><td>4名</td></tr></table> <p>・研修の期間・実施回数 令和4年4月1日 ～ 令和5年3月24日</p> <p>・研修の参加人数 13人（延べ36人）</p>	呼吸器（気道確保に係るもの）関連	5名	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	6名	動脈血液ガス分析関連	10名	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	10名	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	1名	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	4名
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	5名											
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	6名											
動脈血液ガス分析関連	10名											
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	10名											
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	1名											
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	4名											
<p>・研修の主な内容 外来検査、音声・聴覚リハビリテーション</p> <p>・研修の期間・実施回数 2週間 2回</p> <p>・研修の参加人数 それぞれ1名</p>												
<p>・研修の主な内容 感染管理認定看護師教育</p> <p>・研修の期間・実施回数 7月31日・1回</p> <p>・研修の参加人数 15名</p> <p>・研修の主な内容 看護師特定行為研修 共通科目 フィジカルアセスメント：皮膚・リンパ節の診察とアセスメント</p> <p>・研修の期間・実施回数 1回・1時間</p> <p>・研修の参加人数 11名</p>												
<p>・研修の主な内容：放射線障害予防に関する講習，診療用放射線の安全利用に関する講習</p> <p>・研修の期間・実施回数：電子カルテ研修システムによるe-learning</p>												

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の参加人数：約900人
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：トレーニングレポートについて ・研修の期間・実施回数：R5年1月23日～2月20日 ・1回 ・研修の参加人数：1471名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 緊急検査業務研修、採血業務研修 ・研修の期間・実施回数 3ヵ月 ・研修の参加人数 3人
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

令和4年度 看護部院内研修実施内容一覧

(1) クリニカル・ラダーレベルI 対象

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
新規採用者オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の理念と基本方針 2. 医療安全の基本 当院の医療に係る安全管理のための指針 3. 医療機器安全管理 4. 感染対策の基本 5. 医薬品安全管理の基本 6. 診療用放射線に係る安全研修 7. MRI 検査の注意点 8. 損害保険について 9. 勤務時間・休暇等 10. 給与支給・諸手当・社会保険等 11. 学部内交通対策 12. 諸手続き 	4月1日 (8時間)	62
看護部新規採用者オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人としての心構え 2. 看護部組織の一員及び専門職としての心構えと役割 <ul style="list-style-type: none"> ・病院・看護部の組織について ・看護部の理念と基本方針について 3. 看護体制 <ul style="list-style-type: none"> ・PNS 4. 看護記録基準と看護記録について 5. 服装基準と身だしなみ 6. 看護師長、専門・認定看護師、専従看護師紹介 	4月4日 (8時間)	62
看護部新規採用者オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 院内教育計画について 2. 電子カルテの操作方法 3. 新人看護師育成プログラム・クリニカル・ラダー・新人サポーター制度について 	4月5日 (8時間)	62
看護部運営方針	令和4年度看護部長方針について	4月5日 (1時間)	62
看護部新規採用者オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報管理とシステムセキュリティについて <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティに関するインシデント ・セキュリティ対策について 2. 勤務管理 <ul style="list-style-type: none"> ・勤務管理について ・労務管理について ・人事管理における個人情報入力方法について ・看護師免許登録と取扱いについて 3. 感染管理 <ul style="list-style-type: none"> ・標準予防策について ・針刺し防止 ・新型コロナウイルス感染症について看護協会について 4. 看護協会の使命・活動内容・入会案内 	4月6日 (2.5時間)	62
看護部新規採用者オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電子カルテの操作について 2. 関連部署訪問「チーム医療の一員としての役割と連携」 <ul style="list-style-type: none"> ・部署訪問 ・グループワーク 3. 医療接遇マナーとコミュニケーション 	4月7日 (8時間)	62
看護部新規採用者オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 6. 看護の安全 <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントについて ・5Rの確認 ・インシデント対応 	4月7日 (8時間)	62
看護部新規採用者オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護技術 <p>紙おむつの特徴と使用方法</p>	4月7日 (1.5時間)	62
看護部新規採用者オリエンテーション	部署体験研修	4月7日～ 4月8日 (8時間)	62

接遇 I	<ul style="list-style-type: none"> ・患者サービスの質の向上について ・接遇の基本原則 ・挨拶、身だしなみ、言葉遣い ・マナーの基本 ・コミュニケーションについて 	4月8日 (1.5時間)	62
新人研修基礎看護技術	1.食事介助 2.経管栄養 3. 口腔ケア 4. 酸素療法 部署 OJT 研修	4月末まで	56
新人研修基礎看護技術	・移乗・移送 移動介助 部署 OJT 研修	5月末まで (2時間)	56
新人研修基礎看護技術	1.BLS:成人の心肺蘇生法(胸骨圧迫・人工呼吸)、AEDの使用法と実際の場面を想定した実技講習	5月27日 (0.5日)	56
新人研修基礎看護技術	3・気管内吸引:・気管内吸引の実際、目的、必要物品の準備、手技、留意点、	5月27日 (0.5日)	56
新人研修基礎看護技術	・エンゼルケア DVD視聴による研修 エンゼルケアの意義と実際(エンゼルメイク、更衣、家族への配慮)	5月～7月	56
新人研修基礎看護技術	インスリンの基礎知識インスリンの種類、作用、副作用、器材等の知識と情報 ・インスリンに対するインシデント事例と対策 部署 OJT 研修	5月～6月	56
新人研修基礎看護技術	フィジカルイグザミネーション(基礎編)	7月1日	56
新人研修基礎看護技術	深部静脈血栓症の予防(基礎編) 末梢循環動態の観察、ストッキングの正しい履かせ方	7月8日 (1時間)	52
新人研修基礎看護技術	・看取りの看護	11月1日 (1.5時間)	56
新採用者ナラティブ 発表会	自己のナラティブの発表	12月24日 (2時間)	56
部署間交流研修①②	基礎看護技術の未経験項目について、他部署での交流研修により技術を体験学習する。 ・基礎看護技術評価表 I・IIの未経験項目の修得	10月～ 12月 (7時間)	56
新人看護職員フォロー アップ研修	乗り越えられたこと、現状の悩み、自己の成長について振り返り 凝り超えるための戦略	9月22日 (4時間)	56
看護診断(初級)	看護診断(NANDA-I)、看護過程について、看護診断の活用	6月18日 (7時間)	80
看護診断(中級)	アセスメントから看護診断、中範囲理論と看護診断の考え方、用語の概念について	10月8日 (7時間)	80
静脈注射基礎コース	安全管理、感染管理、静脈注射実施範囲基準、解剖整理、薬剤の基本知識、 医療機器の特徴と取り扱い	6月10日 (7時間)	62
消火器・消火栓	消火器・消火栓の取り扱い	7月	60
保全防災①②	避難誘導訓練	①7～8月 ②総合消防 訓練	合計 200

(2) クリニカル・リーダーレベルⅡ 対象

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
フィジカルアセスメント	症例別フィジカルアセスメント演習、グループワーク	10月21日 12月19日 (各2時間)	各30
メンタルヘルス	職場の人間関係、対人困難場面に対する適切な対応方法、ワークストレスの予防と対策、コミュニケーションスキルについて	7月14日 (1時間)	60
救急看護	・救命処置の実技 ・リーダーシップについて ・事例を想定した救急への対応	9月30日 (1.5時間)	50
気管内挿管介助	・必要物品と使い方 ・救急カートの内容と使用目的 ・シミュレーターを使って気管内挿管介助の実際とフィードバック	6月17日 (2時間)	50
リーダー育成研修(基礎編)リーダーシップの基礎	・リーダーの役割、リーダーシップとは何か、 ・役割を発揮するうえで必要な事とは何か ・リーダーとリーダーシップの違い	6月24日 (1.5時間)	50
深部静脈血栓症の予防(応用編)	血栓の発生機序とハイリスクの判断基準、予防方法	9月14日 (1時間)	60
材料部実習	・医療材料の再生処理・滅菌・供給システムの実際	6月～ 12月	72
看護診断(上級)	看護診断に役立つ知識・技術・看護診断指導ポイント、看護診断開発・検証の研究	①5月21日 ②12月17日	120

(3) クリニカル・リーダーレベルⅢ対象

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
看護管理概論	・看護管理とは ・管理者に求められる能力について	6月7日 (1時間)	30
リーダー育成研修(実践編)①	・リーダーの役割 ・リーダーに求められる人間的資質 ・リーダーシップのタイプについて	6月24日 (1.5時間)	50
リーダー育成研修(実践編)②	実践を通して自己のリーダーシップの振り返り 実践報告のレポート	12月16日 (1.5時間)	50
重症患者ケア① 呼吸管理	・クリティカルな状況での呼吸管理 ・体位ドレナージ、口腔ケアの意義 ・合併症予防	9月2日 (2時間)	30
重症患者ケア② 循環管理	クリティカルな状況での循環管理	11月4日 (2時間)	30
レベルⅢ看護診断事例 検討会	事例発表予定の患者の看護診断について、エキスパートナースも含め検討する	6月25日 (1日)	24
レベルⅢ看護診断事例 発表会	受け持ち患者の看護をまとめ発表する	11月26日 (2時間) 12月3日 (2時間)	84 61

(4) クリニカル・リーダーレベルⅣ対象

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
看護サービス管理	・看護サービスについて看護の評価(構造・プロセス・アウトカム)について人材育成する	10月28日 (1.5時間)	10

(5) 役割別研修

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
看護管理①	看護管理とは、マネジメントの基本、PDCA サイクル、管理者に求められる能力について、自己の取り組む課題について	6月16日 (1.5時間)	22
看護管理②	・問題解決技法用い、部署の問題と課題の明確化、 ・課題解決に向けての具体策の検討 ・個別にフィードバック	7月27日 (2時間)	24
看護管理③	・問題解決に向けて、PDCA サイクルを実践した中間報告 各グループ毎実施	9月26日 (1.5時間)	24
看護管理④	問題解決に向けて取り組んだ看護管理の実践報告	12月26日 (2時間)	24
看護師長・副師長合同研修	組織分析、次年度の目標の決定	3月 (1日研修)	70
勤務表作成研修①②	勤務計画表作成の留意点と実際(計画～実績まで)11月分勤務表作成	①10月7日 ②12月7日	各30
接遇研修Ⅱ	事例を通して医療接遇の重要性を理解し求められる行動について	6月18日	60
接遇研修Ⅲ	医療接遇とは 自部署の接遇課題に取り組む	10月11日	60
看護診断指導者育成事例 検討会	臨床推論モデルの演習、自部署の看護診断プロセス(診断指標、危険因子、関連因子、目標、計画)の連動性について	R5年1月	25
看護診断エキスパートナ ス育成研修	担当する看護診断の講義・プレゼンテーション、相談事例に関する助言 内容の検討。看護診断マスター登録		

(6) 全看護職員 対象

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
高齢患者看護	・高齢者の精神的、身体的特徴を理解する。 ・高齢者の身体機能とフレイル 高齢者の皮膚の特徴と皮膚トラブルの予防 ・高齢者の栄養と摂食嚥下	6月11日 (1日)	56
認知症高齢者の看護	・認知症の病態・診断・予防・治療について ・認知症を有する人の対応やコミュニケーション方法、中核症状、せん妄を呈 する認知症高齢者のアセスメント要点と援助方法	5月10日 (1時間)	21
倫理事例検討会	・多職種による事例カンファレンス	①7月21日 ②11月29日 (1時間)	50
医療倫理	・医療倫理とは ・倫理の原則 ・看護と倫理	9月8日 (1.5時間)	60
アドボカシーを育む	・倫理問題に対する対応 ・臨床現場での倫理的問題(事例検討)	10月4日 (1.5時間)	60
看護研究①	・看護研究のテーマ絞り込みのステップ ・文献検索方法	6月24日 (1.5時間)	25
看護診断セミナー (初級編)	・看護過程について ・看護診断の意味・意義・活用について	6月19日 (7時間)	74
看護診断セミナー (中級編)	アセスメントから看護診断、理論背景や用語・概念の理解(自己概念・役割関 係・ストレスコーピング・スピリチュアリティ、その他)	10月23日 (7時間)	68
新人教育サポーター ①	・教育概論 ・リフレクションとは ・シミュレーションとは ・新人サポーター制度について ・新人サポーターの役割	12月2日 (1.5時間)	60

新人教育サポーター ②	・新人の特性 ・効果的な OJT とは ・看護の言語化 臨床判断と看護過程	1 月(4 時間)	60
新人教育サポーター ③	・新人指導の実践を通して自己の指導を振り返り、課題を明確にする。指導 に必要な発問について	8 月 13 日 (4 時間)	60
新人教育サポーター ④	新人教育サポーターの経験を振り返り自己の学びや成長を共有 今後の具体的な教育支援について	11 月 12 日 (4 時間)	60
退院支援	・在宅療養を支える看護師の役割 ・早期退院支援スクリーニングとアセスメント 事例検討	7 月 15 日	41
消火器・消火栓の取 扱い	消火器・消火栓の取扱いについて	①6 月 22 日 ②7 月 6 日 (1 時間)	各 60
保全防災訓練 ①②避難誘導訓練	①避難誘導訓練 ②総合消防訓練	7 月 11 月	200
看護研究①②	①文献検索方法 ②看護研究テーマ絞り込み	①5 月 23 日 ②9 月	各 25
災害訓練	災害訓練 ・自衛消防モードに基づき訓練の実施	12 月 (3 時間)	80
退院支援	在宅療養を支える看護職の役割、早期退院支援スクリーニングとアセスメン ト、退院支援計画書の作成、家族と退院支援の必要性を共有	7 月 15 日 (1.5 時間)	40
「食べる」を支えるテ クニック 接触嚥下研 修	摂食機能アセスメント 関節訓練の知識と具体的な方法 直接訓練の知識	11 月 18 日 (1.5 時間)	60

(7) 院内認定研修 (静脈注射教育プログラム)

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
静脈注射基礎コース ①②③④⑤	①安全管理 ・治療方針の理解、安全(誤認予防)に実施するための予約の原則(5R の徹 底) ②感染管理 ・清潔操作、安全機材の取り扱い、針廃棄について ③静脈注射の実施基準 ・看護師が行う静脈注射実施範囲、静脈注射の法的位置づけと看護師の責 務、静脈注射の用語の説明 ④解剖生理 ・静脈注射を安全に実施するための解剖と整理 ・静脈注射の合併症とその対策 ⑤薬剤の基本的知識 ・静脈注射を安全に実施するための薬剤知識(作用、副作用、投与方法、使用 量と薬剤単位) ・薬剤の保管・管理 ・ 薬剤の種類と取り扱い(ワンショット禁止薬剤、類似名称、形態) ⑥ME 機器の特徴と取り扱い ・輸液ポンプ、シリンジポンプの特徴と使い分け ・輸液ポンプ、シリンジポンプ使用方法とアラームの対処、使用後の後片付け	6 月 10 日 (1 日研修)	54
静脈注射指導コース ①②③④⑤⑥ DVD 視聴研修	①適切な静脈栄養管理 ・静脈栄養の輸液の種類 ・検査データの読み方 ・麻薬の管理 ②緊急輸血、生物学的製剤の取り扱い ③有害事象の予防と対策(手足症候群) ④循環作動薬、ショックバイタル時の輸液管理及びハイリスク薬剤について ⑤抹消・CV ライン・PICC 穿刺部管理	6 月 18 日 ~ 7 月 15 日	80

	⑥血液培養採血の方法		
	⑦CV ポートの管理(穿刺・抜針の演習)	7月16日	
管理者コース ①②③④	①看護管理とはマネジメントの基本、PDCA サイクル、管理者に求められる能力について、問題解決技法の活用方法、自己の取り組む課題について	6月16日 (1.5時間)	22
	②問題解決技法を用いて、部署の課題の明確化 問題解決に向けた具体策の検討、個別フィードバック	7月27日 (2時間)	22
	③問題解決に向けて、PDCA サイクルを実践した中間報告 グループ毎実施	9月26日	22
	④問題解決に向けて取り組んだ看護管理の実践報告	12月26日 (2時間)	22

(8) 皮膚・排泄ケアスキルアップ研修

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
スキンケア I -①	・スキンケアを実施するための基礎知識 ・スキンケアの技術演習	4月20日 (1時間)	62
スキンケア I ②	・スキンケアについて・脆弱な皮膚のスキンケア・皮膚障害のアセスメント・ スキンケアの技術演習・老人のスキントラブルとスキンケア・スキンケアを 実施するための基礎知識	6月23日 (1時間)	20
創傷・褥瘡ケア①	ポジショニングについて	6月20日 (1時間)	20
創傷・褥瘡ケア②	・褥瘡ケアと治癒過程について	7月22日 (1時間)	23
創傷・褥瘡ケア③	スキンケア・医療機器関連圧迫層について	9月26日 (1時間)	21
ストマケア①	サイトマーキングについて	10月24日 (1時間)	21
ストマケア②	ストマケアの基礎	11月21日 (1時間)	7

(9) 感染対策スキルアップ研修 (院内認定)

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
感染対策スキルアップ研修① 看護ケアと感染防止	・尿路感染、血流感染、人工呼吸器関連肺炎、手術部位感染の感染経 路と感染防止策について	9月12日 (1.5時間)	20
リーダーのための感染対 策の基本②	・感染管理に必要なペッドコントロールについて ・標準予防策と経路別予防策について	7月11日 (1.5時間)	20
指導者のための標準予防 策と経路別予防策③	・自部署の防止策の現状、課題の検討、サーベイランスについて	11月14日 (1時間)	20

(10) がん看護スキルアップ研修 (院内認定)

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
がん性疼痛とがん以外の 疼痛の緩和ケアにおける 看護師の役割	1.疼痛のメカニズムと疼痛治療の知識 2.疼痛緩和とマネジメントに必要な知識 3.疼痛緩和における看護師の役割	6月6日 (1時間)	25

がん化学療法に伴う作用と 症状アセスメント	1 がん化学療法の副作用 2 副作用症状のマネジメントとセルフケア支援	9月5日 (1時間)	24
がん放射線療法を受ける 患者の看護	1 放射線療法の特徴、目的、方法 2 放射線の防護・放射線治療の看護の要点 3 放射線治療を受ける患者の有害事象と不安ケア 4 緩和療法の目的の放射線療法看護事例の検討	10月3日 (1時間)	23
看取りの看護	1 臨死期にある患者・家族のニーズと必要なケア 2 看取り時の対応と留意点	12月5日 (1時間)	58
がん患者・家族への意思決 定支援	1 がん患者の特徴的な意思決定場面とプロセス 2 意思決定に関連した患者・家族のアセスメント 3 意思決定支援における看護師の役割	11月7日 (1時間)	15

(11) 発表会

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
レベルⅢ事例レポート発表 会	受け持ち患者の看護をまとめ発表する	11月22日 11月25日 (2時間)	各 100
院内看護研究発表会 実践報告会(示説)(口演)	看護研究発表 部署の実践報告 専門・認定看護師実践報告 委員会活動報告	3月 (2時間)	100

(12) 看護助手研修

研修名	研修内容	研修実施日 (時間)	受講者 数(人)
看護チームの一員としての 心構え	職業倫理、採用身分、急性期看護補助体制加算、個人情報保護につい て	4月27日 (1時間)	43
感染対策① 標準予防策 環境整備	院内感染対策の目的、標準予防策(手洗い、防護具の着脱)、環境整備 の方法	5月27日 (1時間)	31
安全研修① ME 機器の取り扱い	ME 機器の貸し出し、返却方法、機器の清拭方法について	6月24日 (1時間)	22
接遇	接遇に関する課題の共有	7月29日 (1時間)	31
感染対策②感染性廃棄 物・理念の取り扱い	ゴミ分別、感染性廃棄物、リネンの取扱いと搬送方法について、針刺し事 故防止、便尿器の取り扱い	8月26日 (1時間)	21
移送介助の知識・技術	患者確認方法と連絡・相談・報告方法、移送方法と注意点、車いす・スト リッシャーの点検方法	1月22日 (1時間)	16
安全研修② BLS 研修	成人の心肺蘇生、AED の使用方法、院内緊急コール体制の理解	10月29日 (1時間)	23
材料部実習(看護助手)	医療材料の再生処理・滅菌・供給システムの実際		
食事介助の知識と技術	食事の種類、食事のセッティング、介助方法の実際、食事形態の工夫	11月26日 (1時間)	14
安全研修③ 患者確認と検査	MRI 検査時の注意点、患者搬送時の注意点、使用する物品の選択	12月23日 (1時間)	21
災害対策研修	①消化器・消火栓取り扱い ②避難訓練 ③災害訓練	6月22日 7月6日 7月～8月 (1時間)	

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 大屋 祐輔	
管理担当者氏名	総務課長 仲本律雄、医事課長 仲里隆二、検査・輸血部長 前田士郎、手術部長 鈴木幹男、放射線部長 西江昭弘、医療の質・安全管理部長 中西 浩一、感染制御部長 山本和子、ME機器センター長 梅村武寛、薬剤部長 中村克徳、看護部長 眞榮城智子、診療情報管理センター長 平田哲生	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療情報管理センター
		看護記録	診療情報管理センター
		検査所見記録	診療情報管理センター
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	診療情報管理センター
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課、管理課 各診療科
		高度の医療の研修の実績	総務課、各診療科
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室	各課・診療科・関連部署で適切に管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	琉球大学病院における医薬品安全管理実施要項	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	琉球大学病院における医療機器安全管理実施要項	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	琉球大学病院における医療の質・安全管理規程
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	琉球大学病院における感染対策取扱要項
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	琉球大学病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	琉球大学病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項
		医療安全管理部門の設置状況	琉球大学病院における医療の質・安全管理規程
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	琉球大学病院高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	琉球大学病院高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程
		監査委員会の設置状況	国立大学法人琉球大学医療安全監査規程
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	琉球大学病院におけるインシデント又は医療事故並びに死亡事例発生時の報告取扱要項
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	安全管理対策室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	琉球大学病院医療安全相談室運営要項 琉球大学病院医療安全相談窓口運営要項
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	琉球大学病院における医療安全管理の適正な実施の疑義に関する情報提供に関する取扱細則
		職員研修の実施状況	各診療科、各中央診療施設等
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のた	総務課、安全管理対策室、薬剤部、ME機器センター		
		各課・診療科・関連部署で適切に管理している。	

	めの研修の実施状況		
	管理者が有する権限に関する状況	総務課	
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課	
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	病院長 大屋 祐輔
閲覧担当者氏名	総務課長 仲本 律雄
閲覧の求めに応じる場所	・管理棟2階 小会議室
閲覧の手続の概要 閲覧の求めがあった場合、閲覧対応者が個別に対応する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本院における安全管理に関する基本的な考え方 2. 医療に係る安全管理のための組織に関する基本的事項 3. 医療に係る安全管理のための研修等に関する基本方針 4. 本院における医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 患者と医療従事者との間の情報共有に関する基本方針 7. 患者等からの相談への対応等に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理の対策及び教育に関すること。 2. 医療事故及びインシデントの判定に関すること。 3. リスクマネジメント・マニュアルに関すること。 4. 医療事故等が発生したときにおける事実確認、分析、調査検証等及び対策に関すること。 5. 医療事故等の分析等結果を活用した改善のための方策の立案、実施及び実施状況の確認等に関すること。 6. 医療事故等が発生したときにおける患者及び家族等への対応に関すること。 7. 医事紛争が生じたときの拡大防止策に関すること。 8. 訴訟が提起されたときの対策に関すること。 9. 関係機関等への報告に関すること。 10. その他安全管理、医療事故等、医事紛争及び訴訟の重要事項に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年5回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>第1回 医療安全のためのノンテクニカル・スキル</p> <p>第2回 チームSTEPPS研修会</p> <p>第3回 8部署合同医療安全・医薬品・医療機器・医療放射線研修会</p> <p>第4回 支援団体として取り組む医療事故調査制度</p> <p>第5回 チームSTEPPS研修会</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全確保状況報告書を毎月部署で作成し提出する。 ・ 特に3b以上の事例や警鐘事例などは、別途、改善策報告書を提出してもらっている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>① 院内感染対策に関する基本的な考え方 ② 感染対策委員会の設置 ③ 感染対策室および感染対策実務者会議の設置 ④ 職員研修について ⑤ 院内感染発生状況及び抗微生物薬使用状況の把握と報告 ⑥ 院内感染発生時の対応 ⑦ 院内感染対策指針の閲覧に関する対応 ⑧ 院内感染対策の推進</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 感染対策マニュアルの改訂・作成に関すること ② 耐性菌発生状況および対策に関すること ③ 希な耐性菌発生時の保健所との連携や感染対策に関すること ④ アウトブレイクの報告と対策に関すること ⑤ 感染対策研修会に関すること ⑥ ワクチン接種事業 ⑦ 抗体価測定事業 ⑧ 抗菌薬使用状況 ⑨ 血液培養陽性例の発生状況に関すること ⑩ 国公立感染対策協議会からの情報報告 ⑪ 地域連携施設との相互チェック結果と改善内容に関すること ⑫ 新型コロナウイルス、インフルエンザ発生状況に関すること ⑬ 手指衛生遵守率向上に向けての活動報告 ⑭ 針刺し・切創・粘膜曝露発生報告</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>・ 第1回 感染対策・抗菌薬適正使用研修会 配信日：2022年9月8日 内 容：①新型コロナウイルス感染症感染対策、②抗菌薬TDMガイドライン2022の改訂ポイントについて、③指針のテスト 参加者：1692名</p> <p>・ 第2回 感染対策・抗菌薬適正使用研修会 配信日：2023年1月17日 内 容：①「針刺し切創・皮膚粘膜曝露時の対応」、②血液培養検査の適正化について 参加者：1668名</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>① 毎週ICTミーティングを開催し、耐性菌発生の状況や現在実施している感染対策に関する情報をICTで共有している。 ② ICTメンバーで、アウトブレイクの情報と対策の状況について確認を行う。 ③ 感染管理認定看護師にて日々の耐性菌分離状況を確認し、経路別予防策について病棟と情報共有を図っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容：トレーシングレポートについて 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医薬品の採用 2) 医薬品の購入 3) 薬剤部における医薬品の管理 4) 病棟・各部門への医薬品供給 5) 外来患者への医薬品使用 6) 病棟における医薬品の管理 7) 入院患者への医薬品使用 8) 医薬品情報の収集・管理・周知 9) 手術・麻酔部門、救急部門・集中治療室、輸血・血液管理部門、血液浄化部門、臨床検査部門・画像診断部門、外来化学療法部門、歯科領域における医薬品の管理と使用 10) 他施設との連携 11) 在宅患者への医薬品使用 12) 放射線医薬品 13) 院内製剤 <p>手順書に沿った実施状況の確認：遵守状況のチェックを各部署で行い、医薬品安全管理責任者が確認。問題があれば、改善指導を行っている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 適応外使用・禁忌薬使用の運用について 適応外使用・禁忌薬を使用する場合には、医薬品安全管理専門委員会へ「使用の申請書」を提出し審議、使用する。医薬品の使用による生命への影響の大きさによりリスク分類し、審議方法・使用後報告回数を分ける。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 65 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>従事者に対する医療機器安全使用のための研修実施。 人工呼吸器 血液浄化装置 人工心肺装置 PCPS IABP 除細動器 AED シリンジポンプ 輸液ポンプ及び新規導入機器の取り扱い安全研修を実施している</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>医療機器安全管理専門委員会において策定した点検計画に基づいて実施</p> <p>臨床工学技士は、適宜、メンテナンス講習を受講(各機器メンテナンス認定証発行)、保守点検を行っている。ME機器管理システムに、機器情報・保守点検記録・故障修理履歴を保管している。 ME機器センターが中央管理している機器を、日常及び定期点検を実施している。ME機器センターで対応できない機器に関しては、メーカー保守点検契約を結び対応(メーカー対応機種は麻酔器、人工心肺装置、放射線関連装置等)としている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：</p> <p>厚生労働省のHPや、PMDA, PMDAナビ及び、メーカーからの不具合情報をME機器センターで収集し、臨床工学部門で共有している。得られた情報は、院内に該当する機種があるか判断し、各部署に周知徹底している。 重要事項に対しては、ME機器センター長(医療機器安全管理責任者)に報告している。重要事項の必要度に応じて、ME機器センターからお知らせを発行し、再研修や院内ラウンドし全職員に周知徹底している。 勤務体系に合わせ個別対応も行っている。診療に支障が出ない範囲で、院内機器の統一化を図り取り扱いの煩雑さを軽減、医療機器の安全性を高めるようにME機器センターで取組んでいる。 毎月1回、「医療機器安全管理専門委員会」にて、インシデント及びアクシデントの報告、点検修理状況を周知し各部門が集まり対策を図っている。更に毎週金曜日に、特定機能カンファレンスにて医療安全管理対策室を中心として各部門が集まり対策している。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>1. 医療安全管理責任者は、本院の副病院長又は病院長補佐のうちから常勤の医師又は歯科医師をもって充て、病院長が指名する。</p> <p>2. 医療安全管理責任者は、病院長の指揮を受け、医療の質・安全管理部、医療の質向上委員会、医療の質向上対策室、医療安全管理委員会、安全管理対策室、医薬品の安全使用のための責任者（医薬品安全管理責任者）及び医療機器の安全使用のための責任者（医療機器安全管理責任者）、並びに診療用放射線の安全利用のための責任者（医療放射線安全管理責任者）を統括する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p> 医薬品使用の確認の収集は、主に医薬品情報室担当薬剤主任が、PMDA、厚生労働省、製薬会社等のHPやMRからの通知文書、学会等の各種ガイドライン等からまた電子カルテ内の医薬品情報検索システム（JUS・DI）からも収集・整理している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p> 適応外使用・禁忌使用については、調剤時及び病棟薬剤業務時に主治医に疑義照会し、その内容・結果を診療録に記録し、その情報を収集・分析し、医薬品安全管理責任者へ毎月報告している。これらの情報は、定期的に病棟・診療科へ周知し、さらに周知の確認を実施している。また、適応外使用禁忌使用の申請を医薬品安全管理専門委員会へ提出し使用について審議することとしている。</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部， 職種：薬剤師） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p>	

<p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：</p> <p>(1) 当院インフォームドコンセント(以下、IC)ガイドラインに基づき、診療情報管理センター長(IC管理責任者)にて説明同意書の内容監査実施している。評価で要件を満たしていない場合には、評価票を依頼元へ返却し改善を促している。</p> <p>(2) 質的監査において IC 記事記載における項目を設け内容を確認し、診療記録分野専門部会、診療情報管理センター運営委員会、病院運営委員会、各診療科へ報告し、記載改善を促している。</p> <p>(3) 2019年8月より IC 記事記載におけるテンプレートを作成し、運用開始している。</p> <p>当院の臨床指標項目に「全身麻酔手術 IC 時テンプレート記載率」を設定し毎月集計を行い、医療の質向上対策室分析担当者会議へ報告している。また定期的にモニタリングを行う項目に当指標を定め、目標値を設定している。電子カルテ内でもモニタリング項目一覧とその結果をグラフで表示し、職員へ周知を行っている。</p>
--

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>琉球大学病院 診療記録監査要領に基づき監査を実施している。</p> <p>(1) 量的監査：全退院患者を対象として、記載不備等があれば各診療科へリストを送付し改善を促す。</p> <p>(2) 質的監査：医師、看護師、薬剤師、診療情報管理士にて構成された9名の監査員が、毎月無作為に選んだ退院患者の監査を行っている。(退院数約3%の症例数)</p> <p>結果は、診療記録分野専門部会、診療情報管理センター運営委員会、病院運営委員会、各診療科へ報告し、記載改善を促している。</p> <p>(3) 2021年7月より外来及び入院初期記録テンプレートを作成し、運用開始している。</p> <p>当院の臨床指標項目に「入院初期記録テンプレート記載率」を設定し毎月集計を行い、医療の質向上対策室分析担当者会議へ報告している。また定期的にモニタリングを行う項目に当指標を定め、目標値を設定している。電子カルテ内でもモニタリング項目一覧とその結果をグラフで表示し、職員へ周知を行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従(4)名、専任()名、兼任(19)名</p> <p>うち医師：専従(1)名、専任()名、兼任(10)名</p> <p>うち薬剤師：専従(1)名、専任()名、兼任(1)名</p>	

うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（４）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容

1. 安全管理対策に関わる実施状況の調査及び把握に関すること。
2. 安全管理対策に関わる職員等の教育研修の実施及び意識向上の状況確認並びに具体的な指導方に関すること。
3. リスクマネジメント・マニュアル改正に関すること。
4. 医療事故等及び死亡事例に係る発生原因の調査、分析並びに関係部署に対する指導、助言に関すること。
5. 医療事故等及び死亡事例に係る診療録・看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認及び必要な指導に関すること。
6. 医療事故等及び死亡事例発生時における患者及び家族に対する説明等の対応状況の確認及び指導に関すること。
7. 医療紛争の原因の調査及び分析に関すること。
8. 琉球大学病院医療安全管理委員会（以下「医療安全管理委員会」という。）の資料及び議事録の作成並びに保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。
9. 医療安全相談室に関すること。
10. その他、医療安全対策の推進及び連絡調整に関すること。

11. 平時におけるモニタリング事項

①毎月測定している項目

- ・ インシデント報告件数、事象レベル別・内容別割合、同一事例報告の全体に占める割合、医師・歯科医師の報告件数（診療科別）、部署別報告件数
- ・ 転倒転落件数、転倒転落率、受傷率、骨折件数
- ・ 患者誤認件数、内容別件数
- ・ インスリン・麻薬関連の報告件数
- ・ 薬剤関連インシデントの内容別件数（内服薬・注射薬・外用薬）
- ・ 経口抗血栓薬休薬の説明・同意文書使用件数（診療科別）

②半期～1年ごとに測定している項目

- ・ インシデント報告の職種別割合
- ・ 転倒転落インシデント報告のあった患者の危険度（Ⅰ～Ⅲ）別割合
- ・ 転倒転落インシデントの発生場所・発生時間帯・年齢別割合

- ・チューブ類の予定外抜去件数および事象レベル別割合
- ・離院件数の推移

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 高難度新規医療技術を用いた医療提供申請書の提出があった場の内容確認、及び評価委員会に対して高難度医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。適否結果の通知、定期的な診療録等の記載内容確認、従業者の遵守状況の確認等。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 未承認新規医薬品等を用いた医療提供申請書の提出があった場の内容確認、及び評価委員会に対して未承認新規医薬品等の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。適否結果の通知、定期的な診療録等の記載内容確認、従業者の遵守状況の確認等。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 175 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 206 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 院内死亡事例及び管理者が定める水準以上の事例については、毎月 GRM が内容を把握し管理者に報告している。
2. 個々の事例については、週 1 回のカンファレンス、分析担当者会議、医療安全管理委員会で分析、検討している。
3. 適宜マニュアルの改訂、院内巡視、当該部署へのヒアリングと M&M カンファレンスを行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（（病院名： 京都府立医科大学附属病院 ）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名： 岐阜大学医学部附属病院 ）・無）

・技術的助言の実施状況

・ COVID-19 感染拡大を鑑み、訪問による調査は実施せずリモート審査へ変更となった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

1. 受付業務は患者サポート相談窓口（医療福祉センター）が行い、患者等からの医療安全に関する相談等を引き継ぐ。
2. 相談等についての事実確認及び報告書の作成に関すること。
3. 相談等内容の保護及び管理に関すること。
4. その他。相談等に関すること。
5. 相談等は相談室にて対応する。ただし、状況に応じて患者サポート相談窓口を利用する。
6. 対応時間は、平日の 8 時 30 分から 17 時 15 分までとし、受付時間は、平日の 8 時 30 分～16 時 30 分までとする。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

○令和4年度新規採用職員オリエンテーション (R4.4.1) 【163/163名受講】

○令和4年度中途採用者・復職者対象Web・DVD研修) 【63/63名受講】

【第1回】

令和4年6月2日

「医療安全のためのノンテクニカル・スキル」

講師：上田裕一

(地方独立行政法人奈良県立病院機構 理事長/アジア心臓血管胸部外科学会 (ASCVTS) 事務総長)

参加延べ人数：1,552名

【第2回】

令和4年11月17日

「チーム STEPPS」

講師：奥村耕一郎

(おきなわクリニカルシミュレーションセンター安全管理担当 特命教授 医師 GRM)

参加延べ人数：31名

【第3回】

令和5年1月23日～2月20日

「8部署合同医療安全職員研修会」

講師：

- 1) 西平淳子 (安全管理対策室 医師 GRM)
- 2) 西村公彦 (臨床工学室 臨床工学技士)
- 3) 稲福真 (医事課)
- 4) 杉田洋平 (医療技術部 放射線部門 診療放射線技師)
- 5) 平田哲生 (診療情報管理センター 医師)
- 6) 宮良透 (施設運営部 環境整備課)
- 7) 名嘉太郎 (リハビリテーション部 医師)
- 8) 鈴木毅 (薬剤部 がん専門薬剤師)

参加延べ人数：1,471名

【第4回】

令和5年2月1日

「支援団体として取り組む医療事故調査制度」

講師：田名毅

(沖縄県医師会 副会長/首里城下町クリニック第一クリニック 院長/沖縄県内科医会 副会長/那覇市医師会 副会長)

参加延べ人数：791名

【第5回】

令和5年3月8日

「チーム STEPPS」

講師：奥村耕一郎

(おきなわクリニカルシミュレーションセンター安全管理担当 特命教授 医師 GRM)

参加延べ人数：41名

○令和4年度新規採用職員オリエンテーション (R4.4.1) 【163/163名受講】

○令和4年度中途採用者・復職者対象Web・DVD研修 (R4.5以降毎月実施) 【63/63名受講】

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

2022年度特定機能病院管理者研修 (継続)

受講者：管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2021年3月に日本医療機能評価機構による「一般病院3」の訪問審査を受審し、2021年8月に同機構の補充審査を受審した。その結果、条件付き認定という形で2022年5月31日までの期間で認定された。2022年5月に確認審査を受審し条件が解除され、2025年5月29日までの期間で正式に認定を受けた。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

2021年8月に受審した補充審査結果は、病院ホームページに掲載した。また、2022年5月に受審した確認審査結果についても病院ホームページに掲載した。

・評価を踏まえ講じた措置

「安全確保に向けた情報収集と検討」については、報告件数の増加に向けた取り組みや分析・検討の機会の拡充が望まれること、手術室におけるオカレンス事例把握の展開を期待したいとの指摘があった。2020年、医師・歯科医師の報告基準を作成し周知を行い、職員研修等で全職員へ啓発した。翌年から多職種の視点で多面的な改善策立案のため、同一事例報告推奨を開始した。2年間で医師報告数/全報告数 288/2580件→478/3317件、同一事例報告の全報告に占める割合は19%→27%と増加した。報告部署（診療科）と安全管理部門との双方で分析し、追加の改善策立案等を記載することができるよう既存の改善策報告書を修正した。インシデント発生の3ヶ月目以降に安全管理部門が巡視して状況確認を行い、PDCAサイクルを回している。警鐘事例の発生時は、日本医療機能評価機構等の医療安全情報を活用して安全ニュースを作成し、可能な限り早期に職員へ注意喚起している。月末のリスクマネジャー会議で、当該月に発行された安全ニュースの再周知を行っている。

医療の質の向上に向けた取り組みについて、CI・QIデータの収集は行われているが、データを活用するまでには至っておらず、自施設の立ち位置がわかるような仕組みづくりなど更なる活動が求められるとの指摘があった。上記指摘を受けて、以下の対策を講じた。

- ① 各QIについて他院とのベンチマークを行い目標値の設定
- ② 会議体による評価、電子カルテへの掲載など継続的なモニタリング
- ③ 医療の質のバラツキを低減し質の向上を目的としたQCサークル活動の立ち上げ
- ④ 各サークルの活動についての院内発表会、上位サークルの表彰

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 (国立大学法人琉球大学病院長選考等規程) 第4条 病院長は、次に掲げる要件を満たす者とする。 (1) 医療法（昭和23年法律第205号）第10条第2項の条件を満たす者 (2) 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者 (3) 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 公表の方法 大学ホームページで公表 https://www.u-ryukyu.ac.jp/aboutus/byointyo/

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 公表の方法 大学ホームページで公表 https://www.u-ryukyu.ac.jp/aboutus/r4/ 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
木暮 一啓	琉球大学	○	学長が指定する理事	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
大城 功	琉球大学		学長が指定する理事	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
筒井 正人	琉球大学		役職指定	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
高橋 健造	琉球大学		大学院医学研究科から選出された教員	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
鈴木 幹男	琉球大学		病院から選出された教員	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
青木 陽一	琉球大学		学長が指名する病院副病院長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
宮里 達也	沖縄県医師会		学長が委嘱する学外有識者 沖縄県医師会の副会長として、医療、保健について、豊富な知見を有している。	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
諸見里 真	沖縄県保健医療部		学長が委嘱する学外有識者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

			沖縄県の健康福祉に係る担当責任者として県内の医療事情に精通し、医療・保健・福祉全般に豊富な知見を有している。	
神里 みどり	沖縄県立看護大学		学長が委嘱する学外有識者沖縄県の医療系大学の学長として、医療教育に関する豊富な知見を有している。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
眞榮城 智子	琉球大学		学長が必要と認める者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・合議体の主要な審議内容 (1)運営の方針 (2)中期計画 (3)予算及び決算 (4)その他, 病院の運営に関する重要な事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>各構成員は、病院運営委員会の資料及び議事要旨を学内イントラネットで閲覧することができ、各構成員はその内容を職員へ周知することとしている。 委員会においても、各部署の長たる構成員に対し、重要事項は直接職員へ周知徹底するよう依頼している</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 (有・<input checked="" type="checkbox"/>無)</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・<input checked="" type="checkbox"/>無)</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
大屋 祐輔	○	医師	病院長
山本 和子		医師	第一内科長
益崎 裕章		医師	第二内科長
岩淵 成志		医師	第三内科長代行
高槻 光寿		医師	第一外科長
古川 浩二郎		医師	第二外科長
石内 勝吾		医師	脳神経外科長
西田 康太郎		医師	整形外科長
清水 雄介		医師	形成外科長
関根 正幸		医師	産科婦人科長
中西 浩一		医師	小児科長
高橋 健造		医師	皮膚科長
齋藤 誠一		医師	腎泌尿器外科長
鈴木 幹男		医師	耳鼻咽喉科長
古泉 英貴		医師	眼科長
近藤 毅		医師	精神科神経科長
西江 昭弘		医師	放射線科長
垣花 学		医師	麻酔科長
中村 博幸		歯科医師	歯科口腔外科長
和田 直樹		医師	病理診断科長
梅村 武寛		医師	救急科長

大屋 祐輔		医師	リハビリテーション 科長
前田 士郎		医師	検査・輸血部長
鈴木 幹男		医師	手術部長
梅村 武寛		医師	地域・国際医療部長
梅村 武寛		医師	救急部長
梅村 武寛		医師	高気圧治療部長
西江 昭弘		医師	放射線部長
齋藤 誠一		医師	材料部長
垣花 学		医師	集中治療部長
古波蔵 健太郎		医師	血液浄化療法部長
平田 哲生		医師	医療情報部長
銘苅 桂子		医師	周産母子センター部長
和田 直樹		医師	病理部長
高槻 光寿		医師	光学医療診療部長
大屋 祐輔		医師	リハビリテーション 部長
植田 真一郎		医師	臨床薬理学講座長
増田 昌人		医師	がんセンター長
平田 哲生		医師	医療情報管理センター 長
中村 克徳		薬剤師	薬剤部長
眞榮城 智子		看護師	看護部長
青山 信和		診療放射線技師	医療技術部長
加藤 善一		事務職	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
大学のホームページで公表「国立大学法人琉球大学規則集」

- ・ 規程の主な内容

予算執行の権限として、国立大学法人琉球大学会計規則及び予算規程、人事権については、国立大学法人琉球大学組織規則、法人文書管理規定、病院規程、病院人事委員会で対応している

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

琉球大学病院副院長及び病院長補佐に関する内規を改正し（平成30年6月）、副院長、病院長補佐の役割を以下の様に明確化した。

○副院長は、次に掲げる病院長業務を分担する。

- (1) 医療安全、(2) 診療、(3) 経営、(4) 教育研修、(5) 臨床研究、(6) 看護及び患者支援、(7) その他病院長が必要と認める事項

○病院長補佐は、次に掲げる業務を分担する。

- (1) 広報、(2) 研究倫理、(3) 臨床倫理、(4) 遠隔医療、(5) その他病院長が必要と認める事項

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
2023年度 トップマネジメント研修を受講予定（大屋病院長）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>次に掲げる事項を審議する。</p> <p>・ 病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査に関すること。</p> <p>・ 安全管理状況及び改善状況に関すること。</p> <p>・ 監査の実施に際して、病院の業務状況について病院長に報告を求め、又は必要に応じて自ら確認する。</p> <p>・ 委員会は審議の結果に基づき、学長に是正措置を講じるよう意見を提出する。</p> <p>・ 審議の結果及び前述の意見を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>大学公式ホームページおよび病院公式ホームページでの公開</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
後 信	九州大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
望月 保博	かりゆし法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
照喜名 通	NPO 法人アンビシャス		医療を受ける立場にある者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容
専門部署として、琉球大学監査室が設置されており、内部監査の実施、病院運営委員会に監事及び監査室長の陪席を行っている。
監査室による内部監査として、公的研究費（科研費やAMED、補助金等含む）の執行状況、法人文書や個人情報管理状況、病院の業務委託管理状況等について、毎年度監査が実施されている。

・ 専門部署の設置の有無（ ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）

・ 公表の方法

大学公式ホームページにおいて、国立大学法人琉球大学内部監査規則を掲載している。

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 監督は役員会が行う。 高度な医療安全体制を確立するため令和元年7月31日に「国立大学法人琉球大学における琉球大学医学部附属病院の業務の監督に関する申合せ」を制定した。 ・ 会議体の実施状況（年 32 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年 32 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法 琉球大学公式HP（規則集）で公開 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法
ホームページ及び電子カルテポータルシステムでのお知らせ

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>・病院概要や病院情報誌HOTLINEを発行し情報公開。</p> <p>・病院HP、SNS（X（旧twitter）、Facebook、LINE）を通して、地域向けのセミナーや市民講座案内、医療従事者向け研修会、病院移転関連に係る取組等の情報発信。</p> <p>・地域コミュニティラジオ（ぎのわんシティFM）にて「メディカルインフォメーション琉大病院」の放送を行っている。各診療科等の医療従事者が分かりやすく解説を加えながら、県民に多い疾患や診療科の特長について幅広く情報発信を行っている。</p> <p>九州医事新報9月号掲載の楠瀬賢也教授の紹介記事（参考のため、まだ最終版ではありませんが資料を添付します。）。9月中旬に第三内科HP掲載予定。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>・HIV診療カンファレンス：医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床心理士、社会福祉士などが患者の治療、検査結果、社会支援状況を確認する</p> <p>・心臓超音波カンファレンス：循環器内科、循環器外科、臨床検査技師</p> <p>・脳波カンファレンス：脳波担当臨床検査技師と精神科とのカンファレンス</p> <p>・重症度の高い精神疾患を有する妊婦が入院した場合は、精神科、周産期母子センター、小児科でコメディカルも交えカンファレンスを行い問題点の共有、場合によっては児童相談所への通告や要保護児童対策協議会の開催を依頼するなどの対応をとっている。</p> <p>・放射線科カンファレンス：放射線科医と婦人科癌の放射線治療の方針検討、治療の状況確認を行う。</p> <p>・病理カンファレンス：病理医と、婦人科癌などの産婦人科疾患の病理検討を行う。</p> <p>・周産期カンファレンス：産科医は、新生児科医と、妊産婦、胎児、新生児の方針検討、治療の状況確認を行う。</p> <p>・頭頸部外科カンファレンス：耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、形成外科で頭頸部領域の手術症例について術式、手術適応などについて診療科横断的にカンファレンスを実施している。</p> <p>・児童虐待対応検討会、虐待が疑われる症例が発生した場合に、各部署対応者の招集と関連する診療科（外科・脳神経外科・眼科・整形外科など）と連携し問題解決をはかる。</p> <p>・重症度の高い精神疾患を有する妊婦が入院した場合は、精神科、周産期母子センター、小児科でコメディカルも交えカンファレンスを行い問題点の共有、場合によっては児童相談所への通告や要保護児童対策協議会の開催を依頼するなどの対応をとっている。</p> <p>・新生児横隔膜ヘルニアや新生児外科疾患等の患者に対して、小児外科医、臨床工学技士、麻酔科医、看護師等と連携し、患者管理を行なっている。</p> <p>・重症大動脈弁狭窄症や重症僧帽弁閉鎖不全症の患者に対して、循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、臨床工学技士、看護師、放射線技師など、様々な職種の専門家からなるハートチームを形成し、連携して対応している。</p> <p>・心臓血管外科と循環器内科とでハートチームを結成し、カテーテル治療の適応を検討し手術を行っている。</p>	